

2020 March

東京都市大学 校友会
TOKYO CITY UNIVERSITY

都市

vol.07



巻頭言

校友会は ONE TEAM

東京都市大学 校友会 副会長 松村 慶一 (1974年機械)

2019年、ラグビーワールドカップ(W杯)が開催され、W杯日本代表は、日本ラグビー史上初の決勝トーナメント進出(8強)し列島が熱狂しました。この時の興奮は、私ならずとも皆さまも未だに厚く脳裏に残っていることと思います。この時日本代表を率いたジエイミー・ジョゼフヘッドコーチが掲げたスローガンが「ONE TEAM」だったことは記憶に新しい。7か国15人の海外選手を含む31人の選手は「桜の戦士ワンチーム」として心をひとつに快進撃を続けました。

昨年10月には、非常に残念ことでしたが、台風19号の影響により本学世田谷キャンパスが大きな被害を受けました。大学は早期の授業再開、また施設の復旧に取り組んできました。校友会も、このような時にこそ卒業生の力を発揮したいとの思いで、みなさまに向けて義援金活動をスタートさせました。皆様の温かい支援を頂くことできたこ

とは感謝の念に堪えません。このような時に、校友会卒業生の全員が「ONE TEAM」だったことに気が付きました。

そして、10年後の2029年には、本学は100周年を迎えます。その100周年に向けて、正会員数10万1千人余と大学教職員4百6十人余、そして学生7千4百人余とが一体となって、みんなの力で「アクションプラン2030」を推進完結することで、本学のグローバルゼーションを達成できると信じています。いまから、100周年をみなさまとともに「ONE TEAM」で!!



「若い力に期待して」

東京都市大学 校友会 副会長 川辺 加代子 (1975年国文)

はじめに、昨年も各地で多くの自然災害が発生しました。被災された皆様にはお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平穏な日常生活を取り戻せますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、近年、社会のあらゆる分野で「若い力を結集して」という言葉を付した様々なプロジェクトが進められています。それは、未来を見据えた取り組みには既成概念にとられない若い感性と柔軟な発想力、行動力が求められているからでしょう。

校友会においても日々の活動や、来るべき母校創立100周年に向けて新たな取り組みを推進していくためには、校友会組織全体のさらなる活性化を図ることが必要不可欠であり、その推進力となるのが「若い力の結集」なのではないかと思っています。

うれしいことにこの数年、東京都市大学一期生世代を中心とした若い力が少しずつ集まり、動き始めてきました。そして、その「若い魂」はさらに大きく広がってこうとしています。近い将来、そのメンバーたちが校友会の担い

手になっていくことは間違いないでしょう。大いに期待したいと思います。

もちろん、そのためには時間的な制約がある現役世代の若手メンバーが力を発揮し、活動しやすい環境作りが必要です。皆で協力し、知恵を絞り、努力していきたいと思います。

社会的にも誇れる経験と実績を有する多くの諸先輩方に加えて、清新な息吹の若い力が結集すれば校友会はますます盤石となり、母校を支える大きな力となっていくことでしょう。

おわりに、会員の皆様には一人でも多く校友会活動にご参加いただき、母校の発展のためにご協力いただきますようお願い申し上げます。巻頭の言葉とさせていただきます。



創立90周年を迎えて

東京都市大学 学長
東京都市大学 校友会 顧問
三木 千壽

東京都市大学は、昨年10月17日に創立90周年を迎えました。10月19日には創立90周年式典を予定していましたが、10月12日の台風19号による被害のため、式典は中止せざるを得ませんでした。

式典では、葉村真樹先生（未来都市研究機構 教授）による講演「破壊的イノベーションの時代にあって求められるもの」に続けて、大畠章宏様（卒業生）、江幡哲也様（卒業生）、中川聡子先生（工学部 教授）に登壇いただき、小職の司会で、都市大の将来をテーマとしての座談会を計画していました。そこで予定していたテーマは「①今後どのような社会になるのか」「②そのような社会に向けて、本学はどのような人材を輩出していくのか」「③そのためには本学がどのような取り組みを行わなければならないのか」でした。

2029年には100周年を迎えます。90周年からの10年は「都市大の次の100年」を考える期間としたいと考えています。90周年式典はその決起集会の予定でしたが、式典は中止になりましたが、「都市大の次の100年」の議論はぜひスタートしたいと考えています。

都市大の前身である武蔵高等工学校が設立された1929年は、世界恐慌が始まった年です。1931年には満州事変が勃発し、その後、第2次世界大戦に突入します。そのような背景を考えると、建学の精神「公正、自由、自治」の気持ちが強く伝わってきます。戦後復興の時代を経て、世界第2位の経済大国、バブル経済とその崩壊、を経ての今の形です。もちろん90年前には、このような流れは誰も予測していません。

いま、我が国は、どの国も経験をしたことのない状況に陥っています。バブル崩壊後30年経っても出口が見えません。世界の人口が急激に膨張しているときに、我が国の昨年の出生数は86万人とのことです。18歳人口はこれから30年の間に30万人減少することを意味しています。1970－80年代の我が国が急速に隆盛化した時代、新しい大学がどんどん設立された時代とは全く異なる状況です。

2030年からの100年は、それまでの100年よりさらに激動の社会となることだけは確かです。大学の社会における

役割、その中で都市大のミッションを明確にした上で、しっかりとした大学のとるべき道筋を示すことが必須と考えています。学長就任以来「国際標準の大学への進化」を掲げて大学改革を進めてきましたが、都市大としての「特色・特徴と独自性・差別化」をより強く意識して、さらに改革を推進していきます。

昨年11月に開催された日本経済新聞社主催のカンファレンス「大学の約束2019」では、「SDGs と向き合うグローバル人材、2030年に向けた教育と人材育成」がテーマでした。SDGs（持続可能な開発目標）では、2030年までに達成すべき17の目標とそれらを達成するための169のターゲットで構成されています。小職は「STEAM 教育を重視する」と話しました。STEAM とは、**Science**（科学）、**Technology**（技術）、**Engineering**（ものづくり）、**Art**（芸術）、**Mathematics**（数学）の5つの単語の頭文字を組み合わせた造語です。SDGs に向けての人材育成、その方法としての STEAM 教育は、これからの課題と考えています。

世田谷キャンパスは台風被害から着実に復旧しつつあります。泥水に覆われたキャンパスを見た時の驚きは忘れられません。同時に、教職員の皆様が復旧に当たられていた姿も忘れられません。校友会からは様々な形でのご支援をいただいていること、心より感謝いたします。

世田谷キャンパスは2023年を完成目標に整備を進めているところですが、その中には今回の水害の経験を活かしての防災・減災対策を取り入れます。地域との連携や地域への貢献も必須であると考えています。皆様と力を合わせて、水害前よりもステップアップした教育・研究環境を実現したいと考えています。

引き続き、校友会の皆様のご支援、ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。





山根 公高氏

1947年神奈川県鎌倉市生まれの72歳。1973年武蔵工業大学大学院修了後、日産自動車に入社し宇宙航空事業部などに勤務。1992年母校の助教授となり、新設の水素エネルギー研究センターで水素自動車の開発等に取り組む。2012年横浜国立大学より工学博士の学位を授与。2013年定年退職して山根水素エネルギー研究所を設立。2019年従来の化石燃料内燃機関を水素化することを目的としたエンジニアリング会社「iLabo 株式会社」設立

◎今回は、72歳で起業された山根公高さんを取り上げました。そのエネルギーの源は何なのかお尋ねしました。

若いころから一貫した大きな夢があり、その夢に向かって衰えない挑戦心と、その実現にのため突き詰める探求心が、人一倍強いのではないのでしょうか。

◎その夢が、なぜ水素エネルギーだったのですか？

高校時代にもう一つの夢を持っていました。英検1級に合格することでした。このことに関して、世界で活躍するためのツールとして、すごい努力を積み重ねました。

当時の英語の家庭教師先生の一言が、僕の運命を変えてしまったといっても過言ではありません。それは、当時ローマクラブの驚きの提言が化石燃料の枯渇というもので、車好の先生が失望したのです。ガソリンがなくなって、車にも乗れなくなると。

それに対して僕は、地球上に豊富にある水を電気分解することで、無尽蔵の水素が得られることに注目しました。その水素をエネルギーとしたエンジンが出来ないか、考えたのです。

◎内燃機関研究の古浜教授の研究室に

私が3年次に履修した内燃機関工学担当の恩師古浜教授が、授業の最後に内燃研究室の全テーマを黒板に記しました。その中に、水素エンジン研究がありました。通常は、4年生になって初めて研究テーマについて学生の要望調査をして実施するテーマが決まるのですが、その日に、同期が春休みを取っているが、私と私のパートナーである湯浅君は春休みを取らないで内燃研に来て水素エンジン研究を実施するので水素エンジン研究を私たちにやらせてもらえないかと、直談判しました。古浜教授は、ルールに従ってテーマを決めるので、私たちに水素エンジン研究をやらせてあげるといことは今決められない。しかし、勉強をするというならば、春休みから研究室に来てよいという許可を頂いた。熱意が伝わり、研究開発に携わるのは春休み後だが、研究室への入室許可は得られました。その雰囲気を感じただけでも幸せでした。

そして、1970年日本で初めて水素内燃機関研究が始まり、その成果はバスを含む13台の試作車で走行実験も終えて、事業化を何うレベルに達したのです。

◎大学院卒業後は日産自動車宇宙航空事業部に入社

結局、今までの水素エンジンの研究を継続したいとの思いから日産自動車に入社しました。水素エンジンの研究に始まり、個体ロケットエンジンの設計・開発、ラムジェットエンジンのシステム研究などに従事しました。

◎1992年武蔵工業大学の助教授に就任

恩師の古浜教授より、大学に新設される水素エネルギー研究センターの助教授として迎えたいとお話をいただきました。96年にはエネルギー基礎工学科も新設され、助教授として兼務となりました。



新津 真衣氏

2013年人間科学部児童学科卒業。同年、東京都市大学二子幼稚園入社。幼稚園教諭になり7年、現在の仕事についてお話を伺いました。現在は年長を受け持っている。卒業後、等々力会の幹事としても活躍。

◎東京都市大学を進学先を選ばれたのはなぜですか。

— 新設校だったことに魅力を感じたため —

東京都市大学の人間科学部児童学科は新設された学科だったので、すべてが一から始まるということに魅力を感じました。家族からも「女性は資格を持つべき！」と勧められ、幼い子の面倒を見るのが性に合っていると思ったので幼稚園教諭を目指しました。

◎本職について日ごろ感じていること

— 大変な中でも、喜びを実感しています —

幼稚園では様々な行事があるので、その準備が大変です。発表会では何を演じるかを子どもたちと決めて練習、運動会での競技など、はじめは何もできなかった子どもたちが一つひとつ覚えていく過程を見ていけるのは、大変ななかにも嬉しいことです。

年少はただただ可愛くゆったりと時間が過ぎていく気がします。年中になった途端クラスの人数が増えるのは大変ですが、成長が見られる時期です。年長は、ほぼ対等に話ができる子が増えてくるので楽しいし、送り出せる立場に立てるのは嬉しい。入園から卒園まで受け持った子どもたちにはど

うしても思い入れが強い気がします。卒園した子どもたちが園に遊びに帰ってきてくれるのは何よりも嬉しい。園児の中で一番人気の男の子が「先生と結婚してあげる」と言ってくれたことを、卒園した今でも覚えていてくれることを知ったときは嬉しさと同時に子どもの純真さを改めて感じました。

◎子どもたちに伝えたいこと

— 基本的な挨拶に加え、コミュニケーション能力を身につけてほしい —

入園時には幼くて上手く話もできなかった子どもたちが、自我を持ち始めると友達同士でいさかいが起きることがあります。つい口に出して相手を傷つけてしまった言葉を取り消すことはできないけど、別の言葉で修復することはできるんだよ！ということを伝えて

◎公務にも積極的に参加

水素エネルギー協会事務局長（1992～1998年）、WE-NET プロジェクトの水素エネルギー技術標準化委員会主査（1992～1993年）、水素自動車システム開発委員会委員、水素ステーション技術指針検討委員会主査（日本代表）、ISO 水素エネルギー標準化委員会主査、WE-NET 水素エネルギー専門部会委員等々を歴任しました。

現在も、平成15年度より開始された国家プロジェクト「水素安全利用等基盤技術開発」の水素エネルギー技術標準化委員会委員、自動車技術会学会の「ガス燃料エンジン専門部会」委員、NEDO 技術委員（2008年～）も務めています。

◎定年後は自ら山根水素エネルギー研究所を立ち上げる

まだ夢の続きがあるからです。夢が夢のままで、結果がまだ見えていないからです。外部組織からの受託研究を続けながらも、自分の研究に対しては小生の恩師古浜教授、様々な企業、大学をはじめとする多くの学生や協力者がサポートしてくれました。一途な研究と社会が求めている緊急問題、すなわち地球温暖化対策に武蔵工大、都市大で育んだ半世紀もの成果を社会で役立たせたいというその熱意が動かしただと思います。社会で役立たせるためには、それをビジネスにする必要がありました。

◎2019年具体的な目的～従来の燃料内燃機関を水素化することを目的としたエンジニアリング会社 iLabo 株式会社を設立しました

世界的な脱炭素社会の切り札として、持続可能な未来に向けて水素エネルギーが注目されてきました。都内で開かれた「国際水素技術会議 WHTC2019（6月）」でも、国内外の研究者や企業担当者ら1000人以上が参加し、水素製造、交通や都市のインフラ、水素エネルギー政策、規制法など各分野の事業や実証実験などが報告されました。私は水素内燃機関セッションの議長を務めまして、その中で「地球温暖化に歯止めをかけるためにも水素内燃機関導入が急務」と訴えたのです。

自動車分野を見ていても、欧州メーカー、インド、中国は2030年をめどにディーゼルエンジン車の生産を中止することを決めました。日本メーカーも追随しています。どうも潮目が大きく変わってきたようです。

化石燃料により排出されるCO₂を抑制する手段として期待され、実用化が図られてきた電機自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）ですが、大出力を長時間出すことが難しく、燃料電池も量産が極めて難しいことが分かってきました。特に、大出力を必要とするトラック・バス、漁船・船舶、建機、発電機に応用するには、まだまだ課題が多く、時間と費用がこれからも掛かって来ると思います。緊急問題である温暖化対策には間に合わない可能性があります。かつ、トラック・バス、漁船・船舶、建機、発電機は、現在乗用車の約1.5倍の排出量を大気に放出しています。

一方では、水素燃料価格が値下がりしてきており、水素内燃機関の高出力を利用したトラック、バスなどへの実用化が現実味を帯びてきているのです。

実際、国内自動車メーカーから唯一の研究者として、多くの接触機会を得ています。

◎ようやく長年の夢が叶いかけてきましたが、後輩たちに提言がございましたら…

一番言いたいことは、夢を持ち続けることだと思います。そして、必ず実現させなければ意味がありません。そのためには、愚直に努力することが必要なのですが、闇雲にやってもダメです。

実現させて結果を出すには、長い年月がかかることが多いので、計画性が必要です。つまり、夢を計画表に落とし込み、いつまでに何を実現させるか、明確にすることです。

遠くの夢を近くの目標に落として、一つずつ実現していくのです。行動力、実行力が問われます。その達成は人生をかけた喜びです。皆さんも味わってみませんか？

設立した iLabo 株式会社の詳細は、URL：<https://ilabo-corp.com> を訪問してください。



いきたいし、言葉を発する前にちょっと考えてから話してほしい。「自分が言われて嫌なことは人に言っちゃいけない」「自分がされて嬉しいことを人にもしようね」私自身が普段から発している言葉が、子どもたちが今後の人生を歩むなかで訪れる折々の場面での後押しになってくれればと思います。

◎現在の学生に伝えたいこと

— いろいろな経験と人との出会いを大切にしてほしい —

学生時代は時間が自由になるのでいろいろな経験をしてほしいし、いろんな人との出会いを大切にしてほしい！在学中にニュージーランドの海外研修に参加しました。渡航して1週間後くらいの時に「クライストチャーチ地震」が起こり、お世話になったホストファミリーも被災されたため、お別れの挨拶もできないまま帰国してしまったことが今でも心残り、機会があったらまた行きたいと思っています。たった一週間ほどの短い期間でしたが、私の人生で忘れることが出来ない大きな経験であり、その後の人生の糧となっています。楽しいことばかりでなく、辛い苦しいことなど様々な経験を通して学べることは多く、大切なことだと思います。ぜひ、いろいろなことにチャレンジしてほしいですね。

インタビュー終了

新津さんは、嫌なことがあったとしても考えすぎたり、持ち越すことなく上手に忘れることができる性分とのこと、まさに天職に就かれたようですね！

園児たちが帰った後の、残務中の忙しい中お話を伺いました。

ご協力ありがとうございました。



ホームカミングデー

2019年度も大学と共催により各キャンパスにおいてホームカミングデーを行いました。

世田谷キャンパス

台風19号により被災したため、中止となりました。

横浜キャンパス

2019年6月8日（土）開催
出席者113名（招待者87名、迎え側26名）



等々力キャンパス

2019年11月2日（土）開催
出席者191名（招待者137名、迎え側54名）



「茨城県の歴史と自然・海の幸を満喫するバスツアー」 ～水戸・大洗・那珂湊を巡る小旅行～

企画委員会委員長 金子 正樹（1980経営）

校友会会員の皆様にはいつも企画委員会が開催する各種親睦行事にご参加、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

2019年度の親睦行事は「茨城県の歴史と自然・海の幸を満喫するバスツアー」～水戸・大洗・那珂湊を巡る小旅行～として2019年12月7日（土）に参加者33名で実施いたしました。

午前7時50分に新宿駅西口を貸切バスで出発し自己紹介等を行いながら茨城県水戸市を目指しました。常磐自動車道、水戸インターチェンジからほぼ定刻に茨城支部の皆様にご案内いただいた水戸徳川家ゆかりの藩校、弘道館に到着、ガイドツアーで入学はあるが卒業がなく生涯学習の精神の建物内（当日も論語の研鑽中でした）や代々の藩主ゆかりの品々や歴史的な文献等を見学いたしました。その後は茨城支部の皆様の自己紹介や須藤支部長から茨城県の種々のご紹介を伺いながら、大洗マリンタワーに向かい展望台より大洗魚港や太平洋の大海原の展望を楽しみました。その後は、昼食会場の大洗の日野治旅館に向かいました。日野治旅館では茨城支部大畠章宏様に迎えていただき、ご配慮していただいた、あんこうの料理を堪能いたしました。日野治旅館様には特別に、あんこうの吊るし切りも見学させていただき大満足の昼食となりました。校友会館からの差し入れのお酒で乾杯いたしました。

昼食後は樋之口英嗣様にご案内いただき那珂湊おさかな市場、ひたち海浜公園を訪れました。那珂湊おさかな市場では各自がお好みの海産物の買い物で時間を忘れるほどでした。

あいにくの雨模様でしたので、ひたち海浜公園では思ったような散策はかきませんが広大な公園の様子に草花が素敵な時期にまた訪れたいと参加者の多くの方が仰っておられました。

最後は再び水戸市内に戻り偕楽園近くの酒蔵の別春館を見学し梅酒、日本酒等を試飲しました。参加者の皆様は気に入った清酒、梅酒や梅干しを購入されたようです。

別春館で茨城支部の皆様とはお別れし新宿にもどりました。帰路の常磐自動車道、首都高速は渋滞もなく新宿到着は19時00分頃となりました。

参加者の皆様と一日のバス旅行で和気あいあいと親睦を深められ茨城支部の皆様とも大いに話の弾むツアーとなりました。

また、今回は茨城支部の皆様にはお酒や干芋の差し入れを頂戴する等、様々にご助力をたまわりまして誠にありがとうございました。校友会館からもお酒等の差し入れを頂きました。ありがとうございました。（次回以降も東京近郊の支部の皆様には地元ならではの企画等がありましたらご紹介いただくと今後の行事立案に生かせるのではと考えておりますのでよろしくお願いいたします）

校友会会員の皆様の親睦を深めるために企画委員会はこれまでも親睦行事を行ってまいりました。今後もより多くの会員の皆様にご参加いただける行事を行ってまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。



支部だより…全国すべての道府県で支部活動!!

東京都市大学に名称変更して10周年の歳月がたち、新大学名称でおよそ2万余名、全卒業生およそ6万余名が全国で活躍しています。2020年に群馬支部、山梨支部が、そして米国支部がスタートし、全国道府県44支部、海外支部4支部が活動しています。各支部では、総会懇親会だけでなく、大学対抗野球・ゴルフ、史跡めぐり、観劇、家族親睦などを開催しています。さらには、本学教授・著名な卒業生などを講師に招聘し、支部主催の講演を各地で開催しています。多くの地域の一般の方々にも本学を知っていただく機会、また、地域皆様との交流の場ともなっています。それぞれの支部で特徴ある行事を開催し活発な活動が続いています。全国会員各位の積極的な参加（問合せ先：校友会 koyukai@tcu.ac.jp）を期待します。

2019年度 地方支部講演会実績

特別講演（一般市民参加型）

静岡支部（2019/09/07）

「ライフサイクル評価と環境ビジネス」

伊坪 徳宏 氏（環境情報学研究科長 環境学部 教授）

支部講演（支部会員向講演会）

秋田支部（2019/06/08）

「都市インフラの災害リスクと防災・減災について」

丸山 収 氏（都市工学科 教授・1983土木）

長野支部（2019/06/15）

「大学と大学生の昔・今」

萩原 なつ子 氏（立教大学教授 元・東横学園女子短期大学、武蔵工業大学 助教授）

栃木支部（2019/7/13）

「組織と個人の危機管理」

原口 兼正 氏（校友会会長・1974通信）

東海支部（2019/7/13）

「電気自動車を中心としたスマートハウスのこれから」

太田 豊 氏（電気電子通信工学科 准教授）

北海道支部（2019/8/30）

「都市インフラの災害リスクと防災・減災について」

丸山 収 氏（都市工学科 教授・1983土木）

埼玉支部（2019/9/7）

「都市大学グローバル人材育成の取り組み」

桃沢 愛 氏（海外インターンシップ専門委員会委員長）

群馬支部（2020/1/18）

「本学のあゆみ、そして東京都市大学のこれから」

白木 尚人 氏（機械工学科 教授・1991機械）

山梨支部（2020/2/22）

「本学のあゆみ、そして東京都市大学のこれから」

白木 尚人 氏（機械工学科 教授・1991機械）

2019年度 支部総会開催一覧

支部名	開催日	場所	次年度開催予定	支部名	開催日	場所	次年度開催予定
北海道	8月30日(金)	ホテルオークラ札幌	8月下旬	静岡	9月7日(土)	グランドホテル浜松	9月12日(土)
青森	—	—	9月頃	京滋	5月25日(土)	琵琶湖ホテル	5月30日(土)
岩手	6月8日(土)	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング	6月13日(土)	大阪奈良	2月29日(土)	徐園	3月
宮城	10月25日(金)	パレス平安	10月	兵庫	—	—	6月14日(日)
秋田	6月8日(土)	秋田キャッスルホテル	6月13日(土)	和歌山	11月	フォルテワジマ	11月
山形	7月6日(土)	ホテルメトロポリタン山形	6月27日(土)	岡山	10月12日(土)	メルパルク岡山	10月10日(土)
福島	5月25日(土)	栄楽館	5月30日(土)~31日(日)	広島	6月8日(土)	ホテルセンチュリー21広島	6月13日(土)
茨城	6月29日(土)	三の丸ホテル	今年度なし(隔年開催)	山口	6月15日(土)	割烹若新	5月30日(土)
栃木	7月13日(土)	ホテルマイステイズ宇都宮	7月18日(土)	鳥取	7月6日(土)	三朝ロイヤルホテル	7月4日(土)
群馬	1月18日(土)	高崎ワシントンホテルプラザ	6月13日(土)	島根	4月20日(土)	松江テルサ	5月
埼玉	9月7日(土)	さいたま市宇宙劇場、東天紅 JACK 大宮店	9月5日(土)	徳島	6月20日(木)	両国本町 味の城	6月
千葉	7月6日(土)	千葉スカイウイング 東天紅	7月4日(土)	香川	—	—	11月頃
横浜	10月26日(土)	東京都市大学 横浜キャンパス	6月12日(金)	愛媛	6月15日(土)	伊予鉄会館	6月上旬
川崎	10月26日(土)	東京都市大学 横浜キャンパス	10月	高知	6月1日(土)	土佐の國 二十四万石	6月または7月予定
神奈川・瀬	10月26日(土)	東京都市大学 横浜キャンパス	10月	福岡	11月30日(土)	クリオコート博多	11月14日(土)
山梨	2月22日(土)	ホテル談露館	2月	佐賀	11月23日(土・祝)	日浦屋	11月28日(土)
長野	6月15日(土)	ホテル JAL City 長野	7月	長崎	10月26日(土)	ホテルニュー長崎	10月24日(土)
新潟	10月5日(土)	新潟調理師専門学校	10月	熊本	9月27日(金)	KKR ホテル熊本	9月26日(土)
富山	7月20日(土)	富山電気ビル	7月	宮崎	—	—	11月
石川	4月27日(土)	オリブオイルキッチンボルテ金沢	4月25日(土)	大分	11月9日(土)	トキハ会館	11月7日(土)
福井	11月30日(土)	ウエルアオッサ	11月28日(土)	鹿児島	9月7日(土)	ホテルレクストン鹿児島	9月12日(土)
東海	7月13日(土)	トヨタ産業技術記念館	7月11日(土)	沖縄	10月26日(土)	ホテルロイヤルオリオン	10月頃

◆静岡支部

支部長 金子 和裕 (1978経営)

2019年9月7日(土) 静岡支部総会が浜松で開催されました。浜松地域はヤマハ、スズキ、ホンダなどの輸送機メーカーがあり多くの卒業生が在住している地域でもあります。今回の静岡支部総会にあたりましては東京都市大学のPRと総会参加者の増加を目的に本校環境学部教授伊坪徳宏氏による「ライフサイクル評価と環境ビジネス」をテーマとした公開講座を開催しました。公開講座には卒業生67名や一般聴講者23名のほかに地元県立浜松城北工業高校生50名が参加し140名を超える参加者となり満席となりました。特に高校生は環境サークルに所属していることもあって大変熱心に受講していました。講座終了後も伊坪先生と質疑応答などがあり、将来東京都市大の環境学部を受験してくれることを大いに期待するところです。

総会・懇親会には校友会より原口会長、川辺、松村両副会長ほか東海支部の方々を含めて11名のご来賓のご出席を賜り、女性会員も多数の参加を得て盛大かつ和やかな懇親会となりました。



◆新潟支部

支部設立55周年記念講演会を開催

支部長 日野浦 広昭 (1974土木)

2018年10月13日(土) に新潟県支部創設55周年記念講演会を講師に人間科学部の早坂信哉教授をお招きし、「お風呂・温泉を使った健康づくり～今から使える入浴法～」という演題で新潟調理師専門学校講堂を会場として開催しました。記念行事をやるからには大学の知名度を上げる一助にしたいと一年近く前に検討を始め、校友会本部を通じて早坂先生から一般聴講者をも対象とした講演会への了承を頂いて本格的に準備に入りました。会場の選定、チラシの作成、後援の取り付け、一般聴講者への周知、アピールの方法その他諸々の件について何度も幹事



が集まって検討し、知恵を出し合い進めて来ました。新潟県、新潟市、公益財団法人新潟県健康づくり財団、新潟日報社から後援を取り付け、テレビ局及び新聞社にもお願いに回り日本経済新聞、産経新聞、読売新聞そして地元のフリーペーパーなどにも開催予定を掲載してもらいました。広く県内にチラシを配り、事前に参加希望を取って、入念に受け入れ態勢も整えた結果、当日は本部より原口会長にも来ていただき、一般聴講者、来賓、会員で130名近くの方から参加していただきました。先生のユーモアを交えた具体的な話を伺い、その後に活発な質疑応答もあり、聴衆の皆さんには非常に好評をいただきました。最後に本企画に対しまして松村副会長をはじめ校友会本部の皆様から多大なる御支援を頂きましたことに感謝し、お礼を申し上げます。

※なお、この記事は、前号第6号にも掲載いたしましたが、今号も再掲載とさせていただきます。

◆長野支部

支部長 神戸 幸久 (1972電気)

東京都市大学校友会長野支部の2019年度総会は、支部会員31名と来賓5名の参加を頂き開催いたしました。本年度は現在立教大学社会学部教授の萩原なつ子先生をお招きし、『大学と大学生の昔・今一昭和、平成、そして令和へー』と題して講演頂きました。

先生は、1995年4月～2000年3月まで、東横学園女子短期大学で専任講師を務められ、2003年4月～2006年3月まで、武蔵工業大学環境情報学部にて助教授として教鞭を執られてました。私達東京都市大学とも非常に関係深い先生で、かつ毎年スキーで長野には来られているそうで、今回の講演も快く引き受けていただきました。

先生からはまず、大学と大学生の取り巻く社会の変化についてお話し、自分の生き方を自分で選択できる社会への変化、すなわち、多様性＝ダイバーシティの実現を目指すことの必要性、また今は、個人が複数の顔を持つ時代。今の仕事と平行して、パラレルに一生を続けていけることを持つことを提案頂きました。職業としての仕事「ジョブキャリア」だけでなく、社会課題の解決に参画する「ソーシャルキャリア」もあわせた複数のキャリア、「パラレルキャリア」を持って社会に参画していくことが求められ、一人ひとりがいくつになっても、どのような状況でも『居場所』と『出番』を持てる事の必要性を感じさせて頂く時間となりました。



◆群馬支部

校友会 群馬支部 発足記念総会開催

副支部長 高岡 登志仁（1991機械）

2020年1月18日（土）に校友会群馬支部の発足に伴い、記念総会を開催しました。昨年10月に開催予定でしたが、台風の影響で延期となり改めての講演会には白木尚人教授をお迎えし「本学のあゆみ、そして東京都市大学のこれから」をお話いただきました。台風の影響で、当日は天気にも恵まれ、晴れ晴れしい群馬支部のスタートとなりました。

講演会には白木尚人教授をお迎えし「本学のあゆみ、そして東京都市大学のこれから」をお話いただきました。台風の影響が今も残っていることに心を痛めましたが、同時に新校舎などの明るい未来も見ることができました。実は小生、白木先生と同級生、同じ研究室の卒業生であり、我が母校を支える存在であることを誇りに感じています。親睦会では大学時代の一同級生に戻っていましたが…

総勢約40名の方が参加した総会では積極的な意見が飛び交い、親睦会では懐かしい話で盛り上がり、誰もがまるで現役大学生のような元気な笑顔を見せていました。次は「ゴルフコンペ！」とその場で決定。歳は違えど都市大卒業生はみな学友であると感じた一日でした。

今回参加できなかった方もいるかと思います。また転居等でご連絡が届かなかった方、お知り合いの卒業生の方にも是非お声がけいただき、次回は一緒に楽しいお話しを一緒にできたら嬉しいです。ご連絡は支部長の加治屋勉(tcu.kyk.gunma@gmail.com) まで。



◆神奈川・湘南支部

『JAXA 宇宙科学交流棟見学とプラネタリウム観賞会』開催

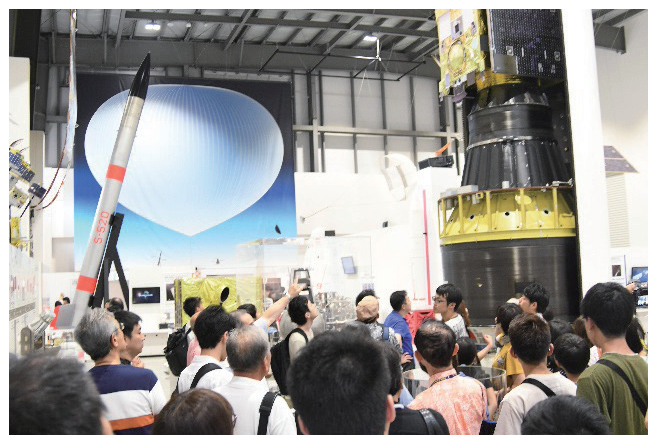
支部長 山田 真久（1969機械）

2019年7月21日（日）、神奈川・湘南支部では、“宇宙をもっと身近に”をテーマに「JAXA 相模原キャンパス内にある宇宙科学探査研究棟の見学・解説ツアー、並びに隣接する相模原市立博物館でのプラネタリウム観賞会」を開催致しました。当日は、他支部会員およびご家族も含め総勢43名（大人36名、子供5名）の方にご参加戴き、大変盛況のうちに見学会を終えることができました。

当支部では、今後も各種イベントを計画しておりますので、その節はぜひご参加ください。



宇宙科学探査交流棟前にて



宇宙科学探査交流棟見学



プラネタリウムにて

◆秋田支部

事務局 小松 俊光（1985建築）

2019年度秋田支部総会が、6月8日（土）に「秋田キャッスルホテル」において、東京都市大学より都市工学科丸山教授（1983土木）、校友会より田崎幹事（1974国文）を来賓にお迎えし、秋田支部会員19名（旧武蔵工業会13名旧美砂会6名）の参加にて開催されました。

地震の発生を予測することは難しいが、事前の対策や発災直後のリアルタイム対応が求められている一方で、最新の工学的な手法により、確率論をもとにリスクを定量化して対策を考えるリスクマネジメントが行われているそうです。

日本海中部沖地震や東日本大震災を経験している秋田でも、災害をどのようにとらえて少しでも被害が少なくなるように自分自身で心がけておく必要がある、と話していただきました。

講演会終了後の懇親会は、酒を酌み交わすことで、先輩の方々と親交を深めることができました。



◆栃木支部

副幹事長兼会計 上野 拓也（1995経営）

2019年で第43回目を迎える栃木支部総会・交流会を2019年7月13日にホテルマイステイズ宇都宮にて、総勢28名の会員参加の元、盛大に開催致しました。

総会後の講演会では、校友会原口会長より『組織と個人の危機管理』というテーマでご講演を頂きました。身の回りや企業内でのリスク対応について、具体的な事例を交えてご説明を頂きました。また、セコム時代の数々の経験談等もお聞かせ頂きました。

今年も昨年に続き、栃木支部親睦ゴルフ会を4月29日は那須小川ゴルフクラブにて、また10月26日には琵琶湖ゴルフ倶楽部にて、両日とも最高の天候の下、和気あいあいのゴルフ交流会を開催させて頂きました。

また、9月15日（日）には鷺子山上神社参拝＆高瀬観光やな企画として、午前中には栃木・茨城両県にまたがるフクロウの神社として信仰を集めている鷺子山上神社を参拝し、神社参拝後は高瀬観光やなににて、那珂川の天然鮎の塩焼きを堪能し、大満足の充実した交流事業となりました。



◆東海支部

支部長 成瀬 圭弘（1980機械）

2019年7月13日（土）に東海支部総会を名古屋市内のトヨタ産業技術記念館にて開催しました。今年度の総会で、7年間支部長を務めて頂いた秦先輩に変わって1980機械の成瀬が新支部長として承認を頂きました。当日は、電気電子通信工学科の太田准教授に参加いただき「電気自動車を中心にしたスマートハウスのこれから」をテーマに講演をしていただきました。電気自動車を電力の貯蔵装置として活用する社会に関する講演でした。近い将来リニア新幹線によって更に変化し、貯蔵できないと言われていた電気を自動車が貯蔵装置と化してまだまだ大きな変革を感じるお話でした。総会は、支部会員31名、静岡支部3名、本部役員2名総勢36名の参加でした。都市大卒が6名と増加傾向です。行事としては、総会、親睦ゴルフ年2回、工場見学会、新年会、役員会を定例として開催しています。同窓というキーワードだけの関わりですが、気楽に交流し少しでも人生の幅を広げることができるとなっております。



◆北海道支部

支部長 高野 準（1979土木）

台風19号による本学の被害に際しまして、校友会北海道支部を代表いたしまして、心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧をご祈念いたします。

さて、東京都市大学校友会北海道支部では、2019年8月30日（金）に北海道支部総会・講演会・懇親会を開催いたしました。この会には、大学から丸山教授、校友会副会長の松村氏の臨席を賜り、41名の卒業生と共に大変楽しい時間を過ごしました。講演会では、丸山教授から「都市インフラの災害リスクと防災・減災について」と題する講演をいただきました。ここに、その内容をご紹介します。地震、次に豪雨災害、経年劣化によるトンネル崩落などについて、聴講者の興味を釘付けとするような熱のこもったお話をしていただきました。地震では北海道南西沖地震、トンネル崩落では道民にとって衝撃的だった北海道豊浜トンネルの事例など、災害の紹介を織り交ぜてお話しされました。リスクを工学的な手法で定量化し、投資効果の分析から資金調達に結び付け、防災を可能とする重要性についてお話がありました。講演後、会場から活発な質疑があり、道内国道トンネルの地域ごとの劣化度評価などが話題となりました。

総会開催時などの機会に、今後も様々な分野の話題について、講演などを継続し、出席者数の増加と会員との交流を図っていきたくと考えています。

◆熊本支部

事務局 坂田 良一（1975機械）

2019年9月27日（金）熊本支部総会に併せて初めてのイベント（歴史探訪）を企画しました。金栗四三氏の出身地は熊本の北部にある玉名地方です。当支部の大石洋君（1999電気電子）が金栗氏の高校の後輩にあたることから、大河ドラマにエキストラ出演し、その後は観光ガイドのボランティアもしておりました。

老若男女15名がバスに乗り込み、「大河ドラマ館」へ。俳優さん達を楽しんだ後は「韋駄天御膳」で舌鼓。続いて終戦から晩年の45年間を過ごした築120年の「住家」見学と金栗氏のお墓参り。菊池川を遡るように山間へ移動し、幼少期を過ごした「生家」を巡りました。特に生家は、築年数200年の古民家で雰囲気抜群！実際にドラマのロケが行われたほど（主人公の生家でのロケは大河史上初！）で貴重な体験ができました。熊本の山間で生まれ育ち、日本人初のオリンピック選手となった後もその人生をマラソンに捧げた金栗四三氏への理解が深まったツアーとなりました。



金栗四三生家前にて



金栗四三銅像前にて

最後は金栗家から受け継いだという酒蔵「花の香酒造」へ。世界的な受賞をした大吟醸など3種類の日本酒を楽しみ、ほろ酔い加減で総会会場へと揺られました。

今後の支部活動も様々な企画で盛り上げていきたいと思っています。

◆兵庫支部

支部長 平井 景三（1971通信）

2019年11月17日（日）ウォーキング会を兼ねて、会員・ご家族28名のご参加のもと、2019年度支部総会（簡略版）が開催されました。JR明石駅をスタートし⇒明石城⇒文化博物館⇒人丸神社⇒天文科学館でプラネタリウム見学⇒最も古い木造建築中崎公会堂⇒明石海岸で明石海峡大橋を望み、魚の棚商店街に全員無事到着。

総会は、2019年活動実績報告、2018年度会計報告、2020年支部役員体制、活動計画案が提起され、満場一致で承認されました。その後、初代支部長の田中浩作様の乾杯で懇親会が開宴。支部体制については、旧武工会9名、



新美砂会 4 名の13名と増強され、新支部長には荒井良祐氏（1976機械）が就任予定。2020年 1 月19日には「初笑い・初詣新年会」を計画しております。



◆佐賀支部

玄海原子力発電所視察会

支部長 横山 敬司（1979経営）

2019年11月23日（土・祝）佐賀支部総会同日に玄海原子力発電所視察会を行いました。参加者は15名でした。

今回の原発視察は2018年から佐賀支部活動に参加してくれている島田優君（2016原子力安全工学科）が九州電力の社員として玄海原子力発電所に勤務していることから企画したものです。

直近に台風15号による千葉県の大規模停電があり、電気があるのは当たり前ではないということを痛感した時期での視察であったため、皆さん熱心に見学されていました。

原発はテロ対策、電源喪失に備えた自家発電施設、冷却水の準備等々安全安心のために莫大な費用をかけていました。とはいえ、火力発電は、CO₂の問題があるなどこれからの電力の在り方を考えさせられた視察でした。

参加者の感想を頂きましたので紹介します。

「かつて原子力をベース電源の一つと位置づけ開発や推進をサポートしてきた立場の者として、初めて原子力発電所を見学でき参考になりました。福島原発事故後も国のベース電源の一つとしての役割は変わらないと考えていますが、玄海原子力発電所における安全性や信頼性の確保に向けて対策や努力を着実に進めていることが良く理解でき



エネルギーパーク集合写真



原子炉模型



植物園（クリスマスバージョン）



発電所遠景

ました。今後も温暖化対策の一つのキーとして原子力発電が見直されても良いのではないかと認識を高めました。」最後に島田君に感謝して報告とします。

◆川崎支部

親子で遊ぼう！シリーズ（第1回目）

カップヌードルミュージアムでマイカップヌードルを作ろう！（2019年12月1日開催） 支部長 山岸 一雄（1979機械）

みなとみらい駅周辺は、多くの家族連れをカップヌードルミュージアムへと誘う足音が絶えません。朝9時の開場にも関わらず、親子や孫連れの家族が玄関ホールからはみ出し、交差点まで列を作っていました。世界に一つだけのマイカップヌードルを作るのが、子供には大人気で、リピーターが多いそうです。

2階へ進むと、歴代で世界のインスタントラーメンのパッケージが並ぶギャラリーでは、1958年の「チキンラーメン」の発明、1971年の「カップヌードル」の発明などが判ります。百福がたった一人で開発に取り組んだ研究小屋ではチキンラーメンの完成の目途が立った1958年3月のある日の様子を忠実に再現しています。「たとえ特別な設備がなくてもアイデアがあれば、ありふれた道具だけで世界的な発明が生み出せる」というメッセージが込められています。

3階の「マイカップヌードルファクトリー」では、自販機で購入したカップにペンで好きな絵や文字を使い、世界で一つのカップ作りに夢中です。

次はトッピングカウンターで麺を入れて、スープと具材（12種類）を選定します。組み合わせは5,460通りです。

4階のワールド麺ロードでは世界の8種類の麺が楽しめます。

次回も開催しますので、是非参加して下さいね。



集合写真



安藤百福の実験小屋を再現



マイカップヌードル—夢中でマイカップを作成中



マイカップヌードル—マイカップを作成中—テーブル中央が色ペン



マイカップヌードル—お好みのスープと具材を選定



マイカップヌードル—左のハンドルを回して麺をカップに入れる

職場支部だより

◆鹿島柏会支部

事務局 藤本 健（1998電気）

・支部総会兼新入社員歓迎会

日 時：2019年4月1日（月）

場 所：鹿島本社 2階食堂

出席者：会員33名、来賓7名（校友会1名、大学6名）
合計40名での開催となりました。

当支部総会は、新入社員歓迎会を兼ねております。新入会員（社員）は、土木系、建築系、グループ会社と採用会社・部署が複数あり、その会社・部署ごとに入社式、その後の社員教育のスケジュールが各々異なるため、また、入社後すぐに地方支店へ赴任になる会員もいるため、毎年、開催日の調整に苦労をしております。本年は、どの日程も新入会員すべての都合が良い日がなく、その中でもできるだけ多くの会員が参加できる日に、...ということから、入社初日の4月1日に開催となりました。また、近年、若手社員の東京近郊の配属が少ないため、参加者数の確保に苦慮しながらの開催となっております。

・進路支援活動

2019年度は、5名の新入会員（社員）を迎えることができました。毎年、如学会、校友会主催の進路相談会に参加させていただき、また、鹿島柏会支部独自の会社説明会を開催し、現役学生の進路支援を行っております。今年（2021年入社学生対象）も、より力を入れて、学生の支援を行っていききたいと思います。



職場支部総会 開催ご報告

◆川崎市役所支部

日 時：2019年2月1日（金）～2日（土）

総 会：19:30～20:00

懇親会：20:00～22:00

場 所：湯河原温泉 ホテルあかね

当日の出席者数：合計39名

内 訳：会員38名、来賓1名



◆大成柏会支部

日時：2019年3月28日（木）18:00～20:00

場所：Y's エステックビル

当日の出席者数：合計52名

内訳：会員42名 + 新入社員4名 計46名、来賓6名



◆飛島柏会支部

日時：2019年11月8日（金）18:30～20:30

場所：中国料理 東天紅 東京国際フォーラム店

当日の出席者数：合計26名

内訳：現役14名、OB5名、来賓5名、社内2名



◆横浜市役所支部

日時：2019年11月13日（水）

総 会：18:30～19:00

懇親会：19:00～21:00

場所：ホテル横浜ガーデン

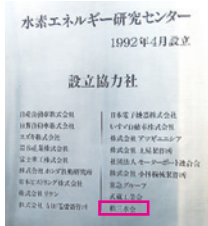
当日の出席者数：合計79名

内訳：現役65名、賛助会員（OB）11名、来賓3名



◆柏三水会

柏三水会は、来年 創立50周年を迎えます。

昭和	平成	令和
1971	1975	1992
設立	水素自動車支援	HERC 設立協力
		
武蔵 2 号	HERC：水素エネルギー研究センター銘版（世田谷キャンパス17号館 B 棟）	時計贈呈
		伝統文化体験
		
		東京商工会議所・長沼一雄氏（S46経営）企画「浅草花街振興」

「柏三水会」は、次の三つを
主な目的として活動しています。

1. 会員企業の発展のためになる知識と情報の交換と収集
2. 会員の心の憩いの場として相互の親睦
3. 東京都市大学及び校友会への貢献

「柏三水会」では、共に学び、遊び、
活動する会員を募集中です！

- ・母校の発展を願う OB であればどなたでも、特に若手大歓迎です。
- ・日頃の活動を通じて、同窓という関係から経営相談や情報交換がより深くでき、また他学科同窓生との交友や人脈の和が広がります。
- ・お問い合わせは、kashiwa-sansuikai@pom.jp まで



「柏三水会」の
活動の様子は、
facebook 上で
ご覧いただけます。



<https://www.facebook.com/kashiwa.sansuikai/>

◆校友会館自由が丘クラブ 利用者数が2.3倍になりました。

東京都市大学校友会館 自由が丘クラブは、2つの会議室とサロンがあります。東京都市大学 OB、現役学生であれば、クラス会、クラブ OB・OG 会などの打合せ会議、懇親会に室料無料で利用できます。

■利用者は2.3倍に増加

4年前の会館リニューアル工事では、会議室だけでなく大理石で囲われた女子トイレも新設されました。利用者も委員会利用中心から OB クラス会、クラブ OB に加え現役学生の利用など幅広く利用されています。その結果、利用者数も月平均 6 日から 16 日と 2.3 倍に増えました。

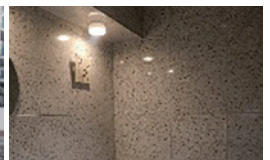


<https://jiyugaoka.club/>

■施設利用

- ・食 事：弁当、飲み物、ケータリングなど手配可能です。
但し、サービス料が別途発生します。
- ・利用申込み：ホームページから予約可能です。
電話でも受け付けします。

※詳細については、ホームページ 又は電話でお問い合わせ下さい。



「自由が丘クラブ」
の利用の様子は、
facebook 上で
ご覧いただけます。



<https://www.facebook.com/校友会館-自由が丘クラブ-622876578150908/>

■機械工学科

主任教授 槇 徹雄

卒業生の皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。2019年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。

4月、学部の新1年生が121名（うち女子が6名、全学年では466名中26名が女子）、大学院修士1年生は25名という結果となりました。また、学部の新1年生のTAP/TUCP（2年後期でのオーストラリア／ニュージーランド留学プログラム）登録者は、本年度11／2名となっており、定着してきたようです。

次に、2019年度の新入生のフレッシューズキャンプですが、埼玉県秩父市文化体育センターにて実施いたしました。今回も教育目標にあわせて、競技大会、教養クイズ、パスタタワー大会を開催することにより、学生間での友達つくり役に立ち、これから学習する多様性やコミュニケーション能力の重要性を充分体験できたものと考えています。

なお、機械工学科は既にJABEE（日本技術者教育認定機構）の技術者教育プログラム認定となっており、今年度は外部評価を受ける予定です。今後とも学科教員一同、教育・研究の改善に努めてまいります。



制限時間一杯チーム討論を実施した真剣な様子（フレッシューズキャンプ）

■電気電子通信工学科

主任教授 岩尾 徹

2019年4月に、電気電子通信工学科となり151名の新入生を迎え、例年通り、新入生、補助の上級生およびクラス担任などの教員が参加して、1泊2日（鴨川ホテル三日月に宿泊）のフレッシューズキャンプ（教務ガイダンス、スポーツ大会、グループ討議、飯盒炊爨などを行う）で新学期がスタートしました。新入生の友達を作り、教員や上級生との面識をつくるのが狙いの行事です。集合写真を下に掲載します。（学科のブログ：<http://grp.tcu.ac.jp/eece/> に掲載しています。）学科のニュースとしては、前述の通り、151名と電気系で日本最大級の大型学科となりました。これにともない、教育改革を進めており、例えば1年生のフレッシューズセミナーや、2年生や3年生では学生実験などを通し、アクティブ・ラーニングやPBLを駆使した教育を推進しています。学生の学びを進化させ、理解度や満足度の向上を図ることで学生の成長を促すとともに、学科の魅力向上を目指し、日々、取り組みを今日羽化しています。最後に、令和元年度の就職状況は、100%内定しました。電気電子通信工学科になっても100%を目指して教職員一同、学生指導をしていきます。



■機械システム工学科

主任教授 宮坂 明宏

校友会皆さまのいつも暖かいご支援にこの場を借りて感謝申し上げます。令和に代わり機械システム工学科の近況をご報告をさせていただきます。

2019年3月に第19期生92名が卒業、機械工学システム専攻修士24名が修了し、4月に学部新入生118名、大学院28名が入学しました。教員では三宅弘晃先生（1999機械）が教授に昇格され、さらに熊谷正芳先生（2002年機械システム）、関口和真先生、および永野秀明先生が准教授に昇格されました。また、田中康寛教授が電気学会2019年基礎・材料・共通部門大会にて「基礎・材料・共通部門特別賞 学術貢献賞」を受賞しました。現在、熊谷准教授が1年間の英国で研修中です。

2019年度のフレッシューズキャンプは湯河原にてバレーボール大会を実施し、紙飛行機を製作して飛翔距離を競う大会を通して学生同士、および学生と教員との間で親睦を深めました。

今年になり機械システム工学科ではJABEE（日本技術者認定機構）で暫定認定を受けることができ、2020年度には本審査を受ける予定となっております。また、2019年は10月12日の台風19号により機械システム工学科では熱流体システム研究室が浸水に見舞われる被害を受けました。残念ではありますが、世田谷キャンパスへ卒業生を招くためのホームカミングデーやMESSAGE（Mechanical System Symposium by all Ages）等のイベントを中止にせざるを得ませんでした。来年は無事に開催できることを祈念いたします。

2020年度では工学部から理工学部へ変更になりますが、学科設立時の教育理念を忘れず優秀な人材を世に輩出して行きたいと思しますので、今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。



2019年FCのバレーボール大会後の集合写真

■医用工学科

主任教授 桐生 昭吾

医用工学科は2007年に生体医工学科として開設され、2013年には医用工学科に名称変更されました。学科創設から12年が経ち多くの卒業生が旅立って行きました。医用工学科では、電気工学と機械工学を基本に医学を学び、新しい医用機器の設計開発など境界領域の研究者や技術者を養成することを目標としています。

今年、まずお知らせしなければならないのは、2019年10月に関東を襲った台風19号の被害です。学校全体でも大きな被害がありましたが、医用工学科では、停電による実験用試料や細胞などの被害の他、音響実験室が水没し、全ての機器と書類類を喪失（廃棄）しました。音響研究室は、電気通信工学科の時代から古い歴史を持ち、50年以上も前の卒論なども保管してありましたが、これらも全て喪失しました。校友会の中にも音響研究室をご卒業された方々が多数いらっしゃると思います。仕方ないこととはいえ、皆様の思い出深い研究室の設備、書類を喪失しましたことを深くお詫びいたします。

台風19号では音響研究室以外では、学科内ではあまり被害は無く、何とか教育や研究が続けている状況です。最近の学生の傾向としては、女子学生が増加したことが挙げられます。現在、2年生は在学生の約3割が、1年生では4割が女子学生であり、機電系エンジニアリング職への女性の関心が高まっていることを示していると考えられます。学科の指導体制としては、教員の入れ替えなどに対応するため研究室の再編および名称変更を行いました。現在、臨床器械工学、生体計測工学、生体マイクロ・ナノデバイス工学、医用電子工学、医用材料工学、細胞・組織工学の6研究室体制で学生の教育や研究活動を支えています。



フレッシューズキャンプにおける救命講習

■エネルギー化学科

主任教授 高橋 政志

エネルギー化学科では2019年3月に63名の卒業生を送り出しました。一方、新入生については、今年度から学科の入学定員が5名増えたことで78名となりました。入学直後に行われたフレッシューズキャンプでは、例年どおりバレーボール大会と日本製鉄君津製鉄所の見学を実施し、初日の夕食後は化源会上級生による懇親会が開かれました。新入生はこれらのプログラムによって早期に学科に馴染むことができ、順調な大学生活をスタートさせています。

学科の各研究室も昨年度中に新6号館4階への移転を完了し、新しい環境で教育・研究活動を再開させています。今年10月には世田谷キャンパスが台風19号による浸水被害を受けてしまい、卒業生の皆さまにはたいへんご心配をおかけいたしました。幸いにも6号館はキャンパス内の建屋の中で唯一停電を免れて、研究室の機器類にも被害はありませんでした。

卒業生の皆さまにはお時間のある時に大学にお立ち寄りいただき、新しい研究室を訪ねていただければ幸いです。今後とも学科の活動に対してご理解をいただき、様々な視点からご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



フレッシューズキャンプ(日本製鉄)



新棟での研究風景

■原子力研究所

管理室員 羽倉 尚人(2005エネルギー基礎)

さまざまなかたちでの情報の発信に取り組んでいます！

■1960年に設立された原子力研究所(川崎市王禅寺)は、2020年で設立から60年になります。1989年に原子炉は停止しましたが、今も原子力・放射線の分野で人材育成・教育研究に活躍しています。

■毎年夏休みにオープン・ラボを行っています。廃止措置中の原子炉ってどんなところなのか？一般の方々に直にご覧頂いています。学生が中心となって実験室や研究炉の紹介、科学体験教室を開催しています。是非一度お越し下さい。

■学内の方にもあまり知られていない原子力研究所のことを少しでも知ってもらいたいという思いから毎月1回メールマガジンを発行しています。学内のメーリングリストにて配信していますが、同じ内容をHPからもご覧いただけます。是非一度ご覧ください。

(<http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/index.html>)



■原子力安全工学科

主任教授 河原林 順

原子力安全工学科は2019年度は45名の新入生を迎えました。去年より恒例となったフレッシュマンキャンプのバス2台体制が固定され、途中のパーキングエリアでの教員のバスの乗り換え(自己紹介のために)も恒例となりました。人数が増えますますますぎやかになっております。今年度は、世界遺産となった富士山…ではなく麓のヤクルト工場でヤクルト製品の試飲や工所を見学したり、中部電力浜岡原子力発電所で、津波対策の大きな壁のそばにいて大きさにびっくりしたりと、中部地方で見学会が行われました。写真は浜岡見学館へ入っていく一同です。

昨年度から原子力人材入試が導入され、原子力に関し学修意欲のある学生を積極的に全国から受け入れて教育する体制となっており、3名の入学者を迎えました。制度の知名度を向上させさらに意欲のある優秀な学生の教育に邁進していく予定です。

卒業生の方々もご活躍の毎日とは存じますが、(本年度は一部中止となりましたが)世田谷等々力祭やホームカミングデーも開かれますので、同窓会を兼ねて同期でお集まりいただき御来学いただけると、教員一同うれしく思います。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を続けていきます。



■建築学科

主任教授 小見 康夫

2020年度より本学に「建築都市デザイン学部」が新設されます。2007年東京電機大・未来科学部、2011年工学院大・建築学部、2017年芝浦工大・建築学部につき、2020年の本学・建築都市デザイン学部により、東京理工系4大学(4工大)全てで建築学科が工学部を離れて新しい学部に移行することになりました。これは近年、建築学科の独自性や存在価値に対して社会からの期待が高まっていることの表れと言えます。

残念なことに10月12日夜、台風19号に伴う内水氾濫により世田谷キャンパスは被災し、建築学科棟も甚大な被害を被りました。製図室や実験室は水没し、多くの機器や家具類が使い物にならなくなりました。そのような中でしたが、「さくらサイエンスプラン(日本・アジア青少年サイエンス交流事業)」により11月25・28日には中国・福州大学の先生3名と学生6名が本学を訪れ、本学科教員・学生らとワークショップを開いて交流を行うことができました。

この原稿を書いている12月上旬でも、まだまだ水害の爪痕があちこちに残っており、被災前の状態に戻るにはなお相当な時間がかかりそうですが、「雨降って地固まる」との思いで頑張っていきたいと思います。校友会の皆様には変わらぬご支援の程、どうぞ宜しくお願いします。



「さくらサイエンスプラン」による中国・福州大学との交流

■都市工学科

主任教授 末政 直晃

2018年度末に、計画マネジメントの今井龍一准教授が退職されました。ビッグデータを用いた交通流の研究などを通して最先端の風を学科に吹き入れてくれました。その流れは後任が継いでくれるでしょう。

都市工学科および都市工学専攻では、2018年度に技術士1次試験に10名、土木技術検定試験に20名の合格者が出ました。さらに今年度は技術士1次試験に40名もの学生が申し込みをしましたが、台風19号の影響で試験自体が2020年3月に延期になりました。この執筆時点では合格者数は分かりませんが、多くの学生が合格してくれることに期待します。

都市工学科の入試状況は、依然として好調を維持しています。気候変動の影響からか、自然災害が年々増加しているように思えますが、国土や都市を守る仕事に就きたいという若者が増えてきているのかもしれません。事実、世田谷キャンパスは台風19号により浸水被害に遭いましたが、都市工学科3年生らが中心となって地域の被害調査や被害軽減策の提案を実行してくれています。就職状況も非常に好調です。12月には本学科のOBOGのご協力によって、約120社が集まる企業説明会を開催することができました。

国際化に向けた取り組みも着実に実を結んでいます。今年度は11名の学生がTAP（都市大オーストラリアプログラム）として豪パーズにあるエディスコワン大学とマードック大学に約3か月間留学しました。また、エディスコワン大学、フィリピン・デラサル大学、タイ・タマサート大学からも学生を受け入れて、1週間程度と短い間でしかたけれども学生と交流しました。

多くの学生が国際会議に参加したり、学会で発表賞を受賞するなど、研究活動も活発です。詳細は学科ホームページをご覧ください（<http://www.civil.tcu.ac.jp/>）。

■知能情報工学科

主任教授 森 博彦

2019年度より経営システム工学科は知能情報工学科と名称を変更しました。入試は都市大全体が好調だった中でも特に多くの受験生が集まり、すべての一般入試で実質倍率でも10倍を超えるという良いスタートを切ることができ、学科の教職員一同、胸をなでおろしています。今年は慌ただしい年でした。これまで経営システム工学科の多くの先生の研究室があった16号館が取り壊されました。そのため6月から7月にかけて全研究室が引っ越しを行い、現在は1号館、3号館。10号館に教員は分散し、学生は新6号館と10号館と仮住まいを行っております。OBの皆さんの多くの方が経過された10号館も取り壊しが決まり、その後の敷地に立つ建物で再集結する予定です。

構成メンバーは本年3月を持って細野先生が定年退職されました。これまで長い間本学科に多大な貢献をさせていただいてただけに、感謝の意でいっぱいです。また、4月より情報通信工学科から藤田技士が本学科に合流していただきました。いろいろと学科の運営に貢献していただいています。最後に悲しいお知らせがあります。本学科に長年貢献していただいた伊東保昌技士が9月23日にお亡くなりになりました。あと半年で定年退職というところの悲報でした。2018年末より闘病生活に入られていたのですが、全員が復帰されることを信じていました。とても残念です。心よりご冥福をお祈りいたします。



年度初めの教員懇談会

■情報科学科

主任教授 横山 孝典

情報科学科の近況を報告させていただきます。まず学生の動向ですが、2019年3月に84名の卒業生を送り出しました。そして4月には99名の新入学生を迎えました。11月1日現在の在籍者数は1年生99名、2年生147名、3年生123名、4年生96名で、合計では465名となります。次に教職員についてですが、中野秀洋先生が教授に昇格されました。

本学は現在国際化に力を入れておりますが、知識工学部には今年度から国際コースが設置されました。国際コース所属の学生は海外留学プログラム（TAP）に参加するとともに、英語による専門科目の講義を受講します。

知識工学部は来年度、情報工学部に名称変更いたします。情報工学部情報科学科として、引き続き超スマート社会を牽引する技術者を育成するため、教育・研究のさらなる向上を目指し努力していく所存でございます。卒業生の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



フレッシュャーズキャンプの集合写真（河口湖畔にて）

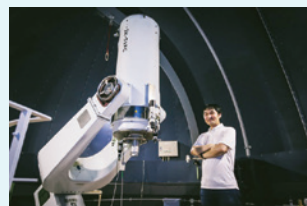
■自然科学科

主任教授 飯島 正徳

2019年度、自然科学科は開設してから10周年を迎えました。その間に学科定員増や学科研究室の新設および引越し等がありましたが、お陰様で来年度には定員60名の学科として完成年度を迎えることができます。また学科は来年度から、工学部を改組する理工学部に移り、理工学部自然科学科となります。同時に総合理工学研究科自然科学専攻が設置され、学部・大学院を通じた一貫教育も可能となり、学科として一人前になります。このような新しいステージを迎えることになり、今年はいろいろな意味で再スタートの年と言えます。

学科の近況としましては、2019年は11期生60名（男子42名、女子18名）が入学し、28名（男18名、女10名）が卒業しました。昨今の私立大学定員厳格化もあり、入試では多くの志願者を集めることが出来ました。今年度4月には天文学の津村耕司准教授が着任し、学科としては天文学・古生物学から数学まで自然科学における幅広い学問領域を全て学ぶことが出来るようになりました。そのほか専任教員に変更はなく、現在13名体制となっています。

就職関連では本学科卒のリクルーターもちらほらと見掛けるようにはなりましたが、大部分は本学他学科のOBの方々にお世話になっているのが現状です。毎年のことですが、この場を借りて厚く御礼申し上げます。自然科学科の卒業生も、皆様の一員として、本学及び社会に貢献できる日が来ることを願っております。



津村准教授（天文学研究室）

■環境創生学科

主任教授 リジャル ホム・バハドゥル

本学科の2019年度の主な取り組みについて説明する。

「グリーンインフラマネジメント」と「都心の河川流域の環境」に関するフラッグシップ研究を開始した。これまで明確な設定がなかった教員の年間発表論文数については、准教授・教授は3編のScopus論文を目標値として設定した。研究教授と研究准教授の選出では、2013年～2017年のScopus論文数・被引用論文に基づいてリジャルと北村准教授に決定された。今後は他の教員より1編多い論文の発表を目標とし、両研究教員の講義や学内業務は減らす予定である。

学生の英語力向上や優秀な留学生確保のために、国際コースの設置と英語ホームページの作成が決定された。国際コースは2020年4月に開始され、卒業時にTOEICと英語科目について一定の条件を満たした学生に終了認定が与えられる。英語ホームページは、今年度中に各研究室のホームページを英語でも掲載する。

その他の取り組みとしては、学生の研究活動がある。史教授とリジャルのさくらサイエンスが採択され、2020年1月に香港理工大学から10名、トリバン大学から10名の教員・学生が訪日し、本大学の学生と調査や研究発表を行った。また、本年度は本学科の多数の学生が国内外の学会で論文発表を行った。特に印象的な出来事は、2年生のある女子学生が前期に「日本建築学会大会」(写真)と「空気調和衛生工学会大会」で熱的快適性と環境調整行動に関する論文を発表したことだった。同学生は、1年生の春休みから研究を始めていたが、2年生の学会発表は前例が少なく他大学からの学会参加の先生方も感心されていた。学会発表は学生の論理的な思考力や説得力が身につくため効果的である。

2020年度も、より良い教育と研究成果に向けた新しい取り組みについて検討したい。



金沢工業大学で開催された日本建築学会大会で論文発表

■環境経営システム学科

主任教授 馬場 健司

2019年は「環境経営システム学科」に生まれ変わって初めての新生を迎えました。志願者数や実質倍率もこの数年は堅調な伸びを示し、選りすぐられた73名が入学しました。内定率は昨年度も98.4%と好調です。また、教員も旧知識工学部経営システム工学科から2名が本学科に加わることで、「経営」の色をより鮮明に打ち出すことになりました。1学年70名の定員に対して教授6名、准教授6名の体制で運営しており、学内でも恵まれた学習環境が提供されています。本学科で先導的に導入されたPBL(Problem Based Learning)科目は来年度から全学で本格的に導入されます。TAPに加えて、来年度からは環境学部として「グローバル人材育成プログラム」を立ち上げ、国際化もさらに進めていきます。文系・理系を問わず、環境・経営の問題発見・解決の技能を身につけたい人、それを国際的な舞台で活かしたい人にぜひ当学科をお薦め下さい。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



今年のPBL科目「横浜・川崎学演習」の様子

■社会メディア学科

主任教授 中村 雅子

社会メディア学科は、環境問題や国際問題などのグローバルな諸問題から、身近なコミュニケーションまで、幅広い現代社会の課題に対して「社会科学的視点から情報メディアを駆使して解決を図る」ことを目指す学科です。このため「調査分析力(リサーチ力)」「アイデア構築・表現力(デザイン力)」「コミュニケーション力」が身に付く実践的な教育を展開しています。また、一人で学ぶだけでなく「知恵を出し合って一緒に課題解決に取り組む」力をつけるために、「社会文化フィールドワーク」や「プロジェクト学習」を始め、多くの科目でグループワークや演習を取り入れています。授業外の学習機会でも、毎年恒例になった「神奈川4大学メディアキャンプ」など、他大学や企業、行政、地域等との協働プロジェクト型の学習機会を多く取り入れています。

最近の話題としては、まず2019年4月に奥村倫弘教授が着任しました。Yahoo!ニュースを立ち上げ、日本一のアクセス数を誇るネットニュース・メディアに成長させた「育ての親」です。また高田昌幸教授が「放送倫理・番組向上機構」(BPO)において「放送倫理検証委員会」委員に就任しました。本学科岡部大介教授と、情報システム学科の大谷教授が取り組む、メディア情報学部の旗艦研究の一つ、「人工知能技術と創造性研究」は、研究面での革新性から新聞等のマス・メディアでも広く紹介されています(読売新聞 5/9など)。また2019年に開催された横浜祭では、横浜キャンパスの2学部4学科の教員チームが、学生団体の協力を得て本学初のeスポーツイベントを開催し、本学科の李洪千准教授が講演を行いました。

これからも境界を超えた知で新たな課題に取り組む触媒となる人材を育てたいと考えています。



奥村教授



神奈川4大学メディアキャンプのワークショップの様子



プロジェクト学習授業風景

■情報システム学科

主任教授 横井 利彰(1981電気)

2019年3月に3期生83名が卒業しました。卒業生の就職先は、情報サービス業・情報通信業が74.4%、製造業4.6%となっています。また4月には、新入生113名(男子95名、女子18名)を迎え、ガイダンスやフレッシュャーズキャンプを通じて、教員と学生・学生間の交流を深めました。6月の横浜祭では、研究室企画加20団体の中から、岩野公司研究室が後援会特別賞を受賞しました。また、横浜キャンパス4学科の教員(情報システムは宮地先生)のチームが学生団体「e-Sports 愛好会」の協力を得て、eスポーツイベントを開催しました。プロと学生の対戦などで大きく盛り上がりしました。8月のオープンキャンパスでは、メディア情報学部主催のコンテスト「第5回高校生デザインコンテスト」を開催しました(情報システム学科:岩野先生・大谷先生)。今年度は高校生25名が参加し、10チームが独創的なアイデアを盛り込んだプログラミング作品を完成させ盛況でした。11月には、外部識者による学科の外部評価委員会を開き、学科で注力しているプログラミング教育の中で、横浜キャンパス開設時から続く、授業アシスタントを通じて学生自身が成長するしくみについて特に良いコメントを頂いています。12月には、来年度研究室配属となる2年生を対象に、学科学生会主催で、教員による研究室紹介、学生による研究室展示が行われ、配属先での研究への熱気を感じられ、今後が楽しみな状況です。



4月のフレッシュャーズキャンプ: 食事・クラスガイダンス風景

■都市生活学科

都市生活学部長 川口 和英

「魅力的で持続可能な都市生活を創造し、グローバル化社会に柔軟に対応できる人材の育成を目指して」

都市生活学科は、2019年度で節目となる10周年を迎え、7期生まで卒業生が誕生いたしました。2019年11月22日には、中村名誉総長、三木学長、高橋五島育英会理事長や多くの来賓をお迎えし、二子玉川夢キャンパスにおいて10周年記念学部展を開催いたしました。

本学科は、短期留学と準備教育を組み込んだ本学独自の国際育成プログラム「TAP」、「TUCP」等、こうしたグローバルな教育プログラムによって多文化共生社会に対応する力を身につけ、またフィールドワークや企業との共同研究を通じて社会体験を深め、それぞれが個性を磨いていきます。国際化社会に臆せず飛び込み、多様な視点から都市を創る楽しさを知っている「新しい都市生活の創造者」をめざし、人材を育てるべく努力しています。国際化への対応として、「国際都市経営コース」(50名)、「都市生活創造コース」110名を、来年2020年度入学生よりスタートいたします。

また、「都市イノベーション—都市生活学の視点」が朝倉書店より、記念事業として2019年11月発刊いたしました。本書は、都市生活学部の所属教員が各分野の専門家、研究者として注目すべき様々な角度から、「都市イノベーション」をとらえたものです。都市をめぐる状況は非常に速いスピードで変化しています。新しい社会をつくっていくためのSOCIETY5.0、人工知能AIやBIGDATAを活用した都市の形成、2030年をターゲットとした国際水準を規定するSDGs、また特に交通の世界ラストワンマイルまで検討する移動体系MaaSなど、都市が対応していく必要のあるイノベーションの世界は次々と新しい展開をみせています。こうした新しい都市をめぐる研究分野にも、都市生活の分野として積極的に対応してまいりたいと考えています。



「都市イノベーション」2019.11発刊



10周年記念 学部展 (1)



10周年記念 学部展 (2)

■共通教育部

人文・社会科学系

主任教授 渡辺 一郎

本学系は、人社教育部門・体育教育部門・教職教育の3部門からなり、各部門それぞれの課題を追求し、さらなる全学教育の発展および社会に貢献できるよう、日々努力を重ねています。

◎人文・社会科学教育部門

教授 新保 良明

2019年の3月から4月にかけて人事が生じました。先ず、心理学の千田茂博准教授が定年退職なさいました（なお、現在は非常勤講師として本学の教育に携わっていただいております）。次に、後任として、日本史をご専門とする丸島和洋准教授をお迎えしました。丸島先生はNHK大河ドラマ『真田丸』の時代考証を担当された方です。そして美術史の岡山理香准教授が教授に昇格なさいました。

一方、将来に目を転じると、注視すべきは2年後に都市生活、人間科学の両学部が世田谷キャンパスに移転してくる点です。両学部の学生総数が千名で、卒業要件として教養科目10単位の修得が求められます。即ち、世田谷キャンパス開講の教養科目のコマ数増を考えねばならないという局面に立たされています。

◎体育教育部門

教授 渡辺 一郎

現在体育部門は、SC 渡辺教授、岩嶋准教授、椿原准教授、山田講師の4名とYC 久保教授計5名で教育、研究はもちろんのこと、ハラスメント相談室長や体育会顧問、科学体験教室責任者等の大学運営業務にと忙しい日々を送っております。特に教育面では、来年度より体育実技のクォーター制移

■児童学科

人間科学部長 井戸 ゆかり

2019年度は108名の新入生を迎えてのスタートとなりました。児童学科が設立され10周年を迎え、多くの卒業生が巣立ち、社会で活躍しています。

学内に併設している子育て支援センター「ぴっぴ」の利用者数も述べ31万人を超えました。学生の子育て支援の良き演習の場となっているとともに、地域貢献にもつながっています。

一昨年から続いている人間科学部児童学科公開講座は、今年も夢キャンパスで開催され、第1回目は松橋圭子准教授による「子どもの好奇心を引き出す—アイデア遊びの世界—」、第2回目は室井真紀子准教授による「たくさん遊んで賢くならう！—遊びの中で育まれる大切なものは？—」で、多くの親子さんが参加しました。

11月には、渋谷区との共催で渋谷区役所において、第2回渋谷福祉学会を開催しました。今年のテーマは、「切れ目のない支援を目指して—人材確保と育成—」で、三木学長、丸泉副学長、長谷部渋谷区長をはじめ、多くの区民、本学の学生、教員の参加があり、様々な立場からの発表・提案・助言がありました。

以上のように学科として教育や研究ばかりではなく、継続的に地域貢献にも注力してまいります。今後も校友会の皆様のおたのしみ見守りとご支援を賜りますようお願い申し上げます。



児童学科公開講座



第2回渋谷福祉学会

行後の授業に関してその対応策にスタッフ全員で取り組んでおります。今までのように1年次14コマ前期後期履修ではなく、7コマを2回履修と短くなってしまいます。短い時間の中でいかに教育効果を上げるか知恵を絞っているところです。今以上に体育実技科目では運動量を増やすよう努力し、スポーツ健康論の講義により体力低下が人体に及ぼす影響等運動の大切さを理論的にわかりやすく教授する必要性と、選択科目である応用体育を1人でも多くの学生に修得して頂けるよう、体育教室スタッフ全員で更なる努力をしていく所存です。

◎教職教育部門

教授 井上 健

教職課程を設置する首都圏の国公立大学75校で組織された「東京地区教職課程研究連絡協議会」という団体があります。東京都市大学は今年度の会長校を務めており、春に「新しい社会と未来の教育—AI時代に育てたい資質・能力—」をテーマにして、また、秋には「学校の“当たり前”を問い直す—学校改革と教員の働き方—」と題するシンポジウムを企画・開催いたしました。個々の大学の垣根を越えた連携や協働が求められる時代であり、本学も積極的に役割を果たそうと努力をしております。スタッフの異動としては、急逝された中込幸二准教授のピンチヒッターとして岩崎敬道名誉教授が、また、任期満了の鈴木邦夫教育講師の後任として殿村洋文教育講師が着任しました。両先生とも経験豊かなベテランであり、理論と実践の両方を見据え、都市大らしい教員の養成を目指しています。

■共通教育部

自然科学系

主任教授 山口 勝己

2019年度は、14名の専任教職員、1名の客員教授、75名の非常勤講師という体制で、主に工学部・知識工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。化学・生物・地学教育部門については、知識工学部自然科学系の教員が担当し、数学、物理教育部門についても自然科学系の教員と連携して教育を行っています。また、大学院工学研究科の共通教育も担当しています。

◎自然科学系／数学教育部門

長年にわたり数学教育部門をとりまとめてこられた金川教授が昨年度で定年退職し、新たに出末先生をお迎えしました。畑上教授、井上准教授、古田准教授、出末准教授、森田教育講師の5名体制に加え、自然科学系の橋本教授、中井准教授、服部准教授と連携して教育研究活動を行っています。

◎自然科学系／物理教育部門

右近教育講師が退職され、新たに綿引先生をお迎えしました。右近先生には引き続き、客員教授として教育、研究に対してご助言いただいております。長田教授、須藤教授、西村准教授、中村講師、綿引教育講師及び菅谷技師補の6名に加えて、自然科学系の飯島教授、津村准教授、門多講師と連携して教育研究活動を行っています。

◎自然科学系／情報教育部門

山口教授、安井講師、荒木教育講師の3名体制で、主に工学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

■総合研究所

所長 野中 謙一郎

東京都市大学総合研究所は、2004年4月に武蔵工業大学総合研究所として等々力キャンパスに設置され、以来、本学の特色ある先端的研究を推進すると共に、大学院生、学部生に対し、先端的教育環境を提供して参りました。令和元年度の研究組織は、機構が2、研究センターが9、卓越教員研究室が2、インキュベーションラボが1、重点推進研究ユニットが5からなる体制でした。研究分野は、未来都市、ナノエレ、インフラ、エンジン、緑地創生、地盤、子ども・福祉、ロボット、ミネラル結晶体、災害制御、太陽電池、マイクロシステムなど多分野に渡ります。本年度は横断型研究を目的に「イノベーション研究機構」を4月に設置し、災害制御を研究すべく12月には「インフラの維持管理と災害制御に関する研究センター」を設置しました。研究組織の多くは、学部所属教員が併任として参画されており、今年度は全学部から約100名の先生が参加しています。各研究組織で外部資金を獲得しながら研究を推進するとともに、総研セミナーによる研究紹介や成果報告を行っています。本年度は学部・学科と同様に外部評価を実施しましたが、今後も頂戴した助言を反映しながら、大学全体の研究をリードしていけるように一層の尽力をしていく所存です。



等々力キャンパスの総合研究所と世田谷キャンパス新6号館

■外国語共通教育センター

主任教授 秋山 義典

次年度から新カリキュラム「都市大スタンダード2.0」がスタート。英語だけでなく、第二外国語を必修の選択科目に入れて、韓国語、中国語や、イタリア語、ドイツ語なども自分の好みに沿ったより自由な外国語の学習が選べるようになりました。TOEICなどの資格試験に集中しがちな学生の外国語学習ですが、英語以外の外国語に触れる絶好の機会であり、新しいアジアの言語や豊かなヨーロッパの言葉との出会いは多くの学生に貴重な体験であり、異文化を理解するきっかけになります。このような新しいカリキュラムを考え出した若手教員の活動をご紹介します。杉本裕代講師は、空間利用と文学・文化活動の接点を研究。等々力キャンパスを中心に児童学科の学生とともに世田谷区との共同活動では、小学校での異文化理解や夢キャンパスでの近隣住民との交流を積極的に進めています。和田忍講師は、図書館を利用して英語多読プログラムを主宰。専門の中世西洋史を活かして横浜キャンパスで教養ゼミに多くの学生の関心を集めています。応用言語学が専門の畑和樹講師は、都市大国際学生寮の初代寮長で大活躍しています。先日の台風被害をうけながらも、自ら先頭に立って指導に当たりました。多くの留学生にとって頼れる兄貴的な存在になっています。小学校からの英語教育も開始され、中学・高校での4技能のバランスを重視した教育に移行し海外留学の浸透や日本社会のグローバル化が進む中、英語で意思をきちんと伝えられる日本人の育成、相手が何を言っているのか判断する読解力も必要。さらに自ら表現する教養力の育成や大学生として自分の興味や関心も大切にしたい。アジアの留学生は母国語はもちろん、英語も流暢に話す。このような激動の時代のなかで、アジアのライバルに負けずに、外国語の若手の活躍によって、これからの外国語教育を加速度的に展開したいと思っています。

■ナノ科学技術学際研究センター

センター長 野平 博司

2016年6月、文部科学省「先端研究基盤共用促進事業（新たな共用システム導入支援プログラム）」の採択を受け、工学系5学科および総合研究所が研究推進体となる「ナノテクノロジー研究推進センター」が設立されました。2019年9月には本学の研究戦略の更なる推進のため、総合研究所ナノエレクトロニクス研究センターで保有の機器の一部の共用化を行い、これに伴いナノテクノロジー研究推進センターの組織変更を行い、「ナノ科学技術学際研究センター」への名称変更も行いました。

分析機器が設置されている2号館は、少しはかくなっていることで、ギリギリのところで台風19号による浸水を免れ、一部機器に被害はあったもののセンター全体としては大きな被害は受けず、本学の研究活動に大きな支障を及ぼさずに済んだことは幸いでした。

2019年度のナノ科学技術学際研究センターの主な活動は、東海大との連携による機器利用説明会や分析技術講習会の開催（夢キャンパス、etc）、SCAN TECH 2019（日本顕微鏡学会 走査電子顕微鏡分科会）の開催（会場：本学の21A～Cと22C教室、150名超の参加者）、初心者のための分析セミナー（表面技術協会）（会場：本学2号館の地下のナノセンター、13名の参加者）などです。

最後になりますが、来年度も、本学の研究活動を支援するために、本年度同様、機器分析セミナーの共同開催やSCAN TECH 2020の開催（2020/9/4）などを予定しています。



NMR講習会の風景
(11/27@夢キャンパス)

■機親会（機械工学科、生産機械工学科、機械システム工学科 同窓生の会） 会長 松村 慶一（1974機械）

機親会は、2019年3月、機械工学科（学部116名、修士博士19名）、機械システム工学科（学部92名、修士博士24名）の卒業生を迎えることができました。会員総数16,186名で構成されています。

機親会活動として、卒業生相互の親睦はもとより、研究室との交流連携を指向してきましたが、その一貫として機親会ホームページ（<http://tcu-kishinkai.sakura.ne.jp/website/>）の一層の充実を図ります。卒業生、学生との相互の情報交換の活性化をめざし、また一般の方々にも興味をもたれる記事を、例えば「日本刀のものづくり技術とその歴史」（仮題 名誉教授 大谷 眞一）、機親会発足当時（1940年代）の機親会報の掲載（当時の研究室の様子）など、これまでにない特徴のある情報発信に取り組みます。会員各位の関連なご意見、ご支援を期待します。

また、大学のグローバル化に即した研究室の研究支援の、修士博士課程研究者支援の観点から、機械系学生の国際学会発表支援（助成）を実施していきます。また、授与者から関係各位へその成果を発表する公開講演を計画します。

最後になりましたが、2019年10月に、台風19号の影響により本学機械系研究室の一部が被災しました。早期の研究室復帰を願って、各位に義援金をお願いした結果、きわめて早期にそして、多くの方々から善意が寄せられました。皆さんの温かいご支援に改めて御礼申し上げます。



武蔵高等工学校 機親会会誌
(第6号 昭和15年(1934年)
3月1日発行)

■緑土会

副会長 高橋 禎夫（1982土木）

皆川新会長となり平成から令和へと元号が移行しました一年間でしたが、校友会ならびに緑土会の会員皆様にはご指導・ご支援のほど大変ありがとうございました。また、昨年11月に世田谷キャンパスにて開催予定としておりました「緑土会総会・懇親会」ですが、台風による母校浸水被害の影響のため、開催中止という苦渋の選択をせざるを得ない状況となりましたことを、この場をお借りしお詫びいたします。一年を振り返りますと、現役学生を対象とした講義・見学等の課外活動支援や就職支援活動、会員の皆様への連絡網やホームページの整備・会報発行および、幹事会や全国各地の支部総会への参加等に追われ、「緑土会の活性化」という面におきましては十分な成果をあげられず課題が残るところです。一方で2016年度より開講の社会人向け大学院「社会基盤マネジメント」プログラム修了者も23名（2019年9月現在）を数え、新たな仲間も増えています。今年2020年の「緑土会総会・懇親会」は、11月13日に開催を予定しておりますので、会員皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。



インターシップの動機
(2019.05.27)



就職支援活動
(2019.12.18)



支部総会参加状況
(2019.07.13栃木支部)



社会基盤マネジメント(意見交換)



社会基盤マネジメント(講義風景)

■電友会

会長 石田 弥（1970電気）

2019年は、台風により多大な被害に会われた本学にお見舞い申し上げますとともに、会員の皆様には校友会を中心とした大学支援へのご協力に御礼申し上げます。また本会活動へのご協力に感謝し本年のご支援をお願い申し上げます。

●昨年度の主な活動報告

- ①一昨年作成した、電気系研究室の系譜を活用しての年代を経た会員同志の交流の取り組み普及は出来ませんでした。引き続き今後の課題です。
- ②学生支援 受験合格者なし、鳥山杯中止
- ③電友会長賞授与 松本昂樹君
- ④百目鬼英雄教授が定年を迎えられ、昨年2月に最終講義及び感謝の会が開催され多くの会員が参加しました。



最終講義



感謝の会（ラウンジウォーク）

●今年度の主な活動

- ①幹事会の開催 2020年4月18日（土）予定
- ②会員支援（研究室、年度別などの同窓会）
- ③会員交流（ホームカミングデーに合わせて開催）
- ④学生支援（鳥山杯、技術士・電検三種の受験他）

- 連絡先：事務局：denyukai@tcu.ac.jp（担当：鈴木憲史）
会長：ishida_w@mua.biglobe.ne.jp

■如学会

会長 山岡 嘉彌（1971建築）

今年度の主要なイベントの内、「進路ガイダンス」は、前期（分野紹介）、後期（企業紹介）と初めて2回に分けて実施、その間に「準備会」を挟み、より肌理の細かい進路相談の場となりました。後期は、約1週間前の台風19号の浸水被害により、急遽会場を横浜キャンパスに移して開催。例年にも増して多くの企業や学生の皆さんが集まり、つつがなく実施いたしました。「建築100人展」は大学祭の中止により「大学展」は中止となりましたが、「浅草展」は3月7日より開催いたします。毎年恒例の「OB・OGによる夏期特別講義」（2単位取得）は、8月初旬の5日間に15人の特別講師で実施しました。今年度の最大のエポックは、如学会主催、柏三水会共催で企画した、本学学生がTAPにより留学しているオーストラリア2大学を視察する3泊5日の「パース・シドニーツアー」でした。参加者計15名の校友の中には、元オーストラリア・カンタス航空のCAをつとめておられた経験のある宇野美智子氏（1979・英語英文専攻/新美砂会）があり、十分な事前調査の上、世界一美しい街といわれているパース市や素晴らしい2つの大学キャンパスの訪問、シドニー・オペラハウスとミュージカル鑑賞など、充実した旅を満喫してきました。

2020年度総会・講演会・懇親会は、2020年（令和2年）6月6日（土）・渋谷エクセルホテル東急にて開催予定です。



シドニー・オペラハウスとTCU視察団



エディスコワン大学視察



エディスコワン大学・TCU留学生



マードック大学・TCU留学生

■通友会

会長 矢澤 猛 (1972通信)

通友会の会報 FLUX でもお知らせ致しますが、2019年6月22日の通友会総会にて会長に選出されました矢澤です。微力ではありますが新役員と共に通友会の更なる発展に努めてまいりますので、皆様のご協力をお願い致します。是非本会の様々なイベントに参加していただき、会員相互の親睦を深めて自身の生活をより豊かに楽しんでいただきたいと思います。

新しい役員には、若い世代の会員の方々にも参加しやすく楽しんでいただけるように、忙しい世代となります若い年代の方々にも参画していただきました。

通友会役員 (2019年6月改選)

会長 矢澤 猛 (1972)

副会長 藤川 進 (1972)

挽野 元 (1990)

代表幹事 総務委員長 伴城 暢一 (1993)

広報委員長 金子 核 (1993)

財務委員長 坪井 博志 (2005)

コミュニケーション委員長 井田 匠海 (2019)

監査役 佐藤 光司 (1963)、東島 義澄 (1964)

顧問 大島 弘之 (1965)、鈴木 威一 (1966)

原口 兼正 (1974)、柴田 随道 (主任教授)

名誉会員 副島 信治 (1957)、中添 淳 (1959)

主な活動は、総会、役員会、親睦会、FLUX 発行などの他、バス見学会、講演会、通工会支援、通友会賞授与等があります。今後校友会とも密な連携を図り OB 会活動の活性化に貢献していきたいと存じます。



■経友会

会長 海老沼 利光 (1974年経営)

1) 学生支援活動を積極的に推進しています。「経工会」支援を開始し、4年が経過しました。経営工学卒業生の実践体験談を中心とした学生指導、企業訪問、工場見学会を実施しています。

就活においては、多数の優良企業より採用通知をいただきました。

世田谷祭への「経工会・経友会パネル展示参加」を予定していましたが、台風により世田谷祭が中止になりました。

2) 地方支部は全国に44支部あり、下記の7支部の支部長を経営工学科出身者が支部長を務めています。経友会ニュース12号は「支部長の誌上紹介」を掲載しました。

鹿児島支部：1966年卒：郡山宣治支部長

島根支部：1968年卒：今崎一治支部長

福井支部：1974年卒：荒井由紀夫支部長

京滋支部：1976年卒：廣原美照支部長

佐賀支部：1979年卒：横山敬司支部長

静岡支部：1978年卒：金子和裕支部長

(校友会常任幹事)

富山支部：1981年卒：鹿熊裕二支部長

3) 役員会を定例開催し、事業計画、学生支援策、予算案などの立案・審議をしています。

4) 経友会ニュースの発行
活動内容を広報する「経友会ニュース」を定期発行しています。経友会会員への郵送配布と地方支部の総会開催時に、出席者へ配布をしています。

5) 「新しい社会を創造する先進的技術者を育成する学科」を目指した「知能情報学科」が4月にスタートし、新1年生が入学しました。

2、3、4年生は、経営システム工学科に在籍しています。

現2年生が経営システム工学科の最後の卒業生になります。

「知能情報工学科」の発展に大いに協力・支援しつつ、「経」が消えた今日、「経友会」の名称をどうするかの課題があります。

卒業生の皆様からのご意見をお待ちしております。



キャノンパネルバ訪問



バス工場見学会



企業説明



経友会定例役員会

■医工会 (旧 生体医工学科・医用工学科 同窓会)

小林 匠 (2011生体医)

医工会の活動活性化を図り、11月6日(水)に東京都市大学 臨床工学研究室にて打合せを実施いたしました。当日は顧問の和多田教授をお招きして、医工会の会員による闊達な意見交換がなされました。2019年度総会の計画を進めてまいりましたが台風19号の影響により残念ながら延期となりました。当面の課題は延期された総会の早期開催と定期的なイベントの確立となりそうです。

2018年度に続き、7月13日-14日には生体医工学科の卒業生とその家族を対象にしてキャンプ・バーベキューイベントを開催しました。今回の企画は好評を得られましたので引き続き開催を予定しております。

イベント終了後には有志による打合せが行われ今後の改善点などについて話し合われました。医工会設立以来会員数が増えて参りましたので、より一層、管理運営に力を入れていく所存です。

■原子力友の会

羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

毎年4月最初の土曜日は王禅寺に！

■本会では、毎年4月の最初の土曜日に王禅寺にある原子力研究所にて花見会を開催している。2019年度は4月6日に開催し33名の参加があった。学生と教



職員、そして卒業生の緩やかな交流の場として定着しつつある。卒業生が家族連れで参加する場面も見られ、先輩後輩、先生方との話に花が咲いている。「毎年4月最初の土曜日は王禅寺に！」ぜひお気軽にお越し下さい。詳細やお問合せは原子力友の会 HP よりどうぞ。

(<http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>)

■2019年7月13日に世田谷キャンパスにて第8回定期総会・講演会を開催した。講演会では原子力安全工学科・松浦治明先生に「再処理・バックエンド研究の今後」と題してご講演いただいた。

終了後には世田谷キャンパス裏門のすぐ脇にあるお馴染みの「たまき」さんにて懇親会を行った。



■さきがけ

会長 加藤 広樹 (2013自然科学)

2019年の事業は下記の通りです。①2018年度さきがけ賞授与(3名)②フレッシューズキャンプTA費用支援③2019年さきがけ総会開催④会報「さきがけ」第8・9号発行⑤ホームページ更新⑥スキー・スノーボード交流会実施⑦学生との交流会(就職・進学相談会)。スキー・スノーボード交流会はさきがけが主体となり在学生と卒業生の交流を目的として実施しました。初めての試みであったことや、遠隔地(かぐらスキー場・新潟)での開催であったにも関わらず、13名の参加者が集まりました。スノーボードに初めて挑戦する方もおりましたが、上級者・経験者との交流・指導により楽しく滑る姿も見ることができました。また2019年11月に開催予定であったホームカミングデーは台風19号の影響により残念ながら中止に致しました。ホームカミングデーや各種イベントの予定はホームページに随時掲載しております。



■新美砂会

副会長 川辺 加代子 (1975国文)

昨年は自然の猛威になすすべもなく、改めて人間は非力であると思ひ知られることとなりました。母校世田谷キャンパスも被害を受けました。皆様のお住まいの地域はいかがでしたでしょうか。被害に遭われました方には改めてお見舞い申し上げます。

◇報告

新美砂会総会ならびに等々力キャンパスホームカミングデー開催

2019年11月2日、等々力キャンパス学園祭期間中、ホームカミングデーに先駆け昨年同様、3号館大会議室にて第5回新美砂会総会を開催いたしました。当日は地方で活躍してくださっている会員にもご参加いただきました。前年度会計報告等と併せて、現在の新美砂会を取り巻く状況や母校の様子、校友会としての取り組みなどの報告をさせていただきました。

総会に引き続き、学生食堂にてホームカミングデーが開催されました。恩師を始め来賓の皆様方にご臨席を賜りました。翌11月3日に予定していた世田谷キャンパスのホームカミングデーが台風被害により中止となったため、多くの旧武蔵工大卒業生や世田谷キャンパス教職員の方にもご参加いただき、例年の2倍近い出席者のもと、若い等々力会のメンバーが中心となって会を進行し盛会に終えることが出来ました。

以前よりお伝えしておりますように数年後には等々力キャンパスは世田谷キャンパスに統合される予定です。懐かしい学び舎を訪れる機会は残り少なくなってきましたので、毎年開催されるホームカミングデーには皆様お誘いあわせの上、ご参加くださいませ。ご参加の折には校友会本部に申し込みをお願いいたします。

◇お願い

校友会並びに本会の様々な情報をお伝えし、会員の皆様に積極的に参加していただくために、ぜひ「都市大校友オンライン」にご登録をお願いいたします。



■楷の木会 (横浜キャンパス同窓会)

清田 華代 (2005環境情報)

2019年6月8日(土)、横浜祭初日、2019年度 Homecoming Day では、東京都市大学 環境学部 環境創生学科 吉崎真司教授による特別講義「思えば遠くへ来たもんだ!」、卒業生による講演では、榊原邦勝さん(2000環境)(沼田研究室/パナソニック株式会社)、井ノ口栄美さん(2002環境)(小堀研究室/認定NPO 法人エバーラスティング・ネイチャー)、岸田真由子さん(2002環境)(沼田研究室/イベントレジスト株式会社)の3名に講演して頂きました。

第二部の懇親会では、合計113名にご参加頂き、多くの在校生・卒業生・学校関係者のみなさまが集いました。託児所とキッズスペースも好評で、お子様連れで卒業生も多く参加頂きました。来年度(2020年6月6日(土)開催)もみなさまのご参加をお待ちしております。



左から吉崎先生、榊原さん、井ノ口さん、岸田さん



ソーラカーチーム柏会 校友会夢キャンパスセミナーで講演



2020年1月25日(土)に東京都市大学二子玉川夢キャンパスで第4回校友会夢キャンパスセミナー「ゼロからの出発!そして夢見たソーラカーでのオーストラリア縦断レース参戦へ!」~チーム結成から現在までのキセキ~をテーマとしてソーラカーチーム柏会のリーダーである福北博史氏(1995機械院)、伊倉和弘氏(1996機械)にお話しいただきました。

1992~95年に武蔵工業大学(現東京都市大学)機械工学科でソーラカーの開発・試作という研究テーマを行っていたメンバーが、その当時の感動を忘れられず、オーストラリアで開催する世界最大のソーラカーレースWSCに出場・完走する事を目標として、1998年にチームを結成しました。1999年に念願のオーストラリア3,000km縦断レースに挑み、見事完走(42チーム中27位)。その後も2000年から毎年、鈴鹿レースに参戦、4度チャレンジクラスでの優勝を遂げ、毎年優勝を争う常連になっています。その間、毎年技術的テーマを決め、車体の改善に取り組んでおり、2018年は、新車開発に専念したうえで、2019年に鈴鹿レースオリンピッククラスへ出場し、上位入賞を果たしました。以上について、お二人から、ソーラカーに対する熱い思いを語っていただくとともに有志のメンバー参加により今後も更に活動も続け、レースに挑戦していくとの強い決意が述べられました。この取り組みを始めて聞いたという方が大部分で、今回それを知る良い機会となりました。





東京都市大学体育会 アイスホッケー部創立60周年式典 盛会に開催

体育会アイスホッケー部 OB 会

元号が平成から令和に替わり、東京都市大学が創立90周年の年にアイスホッケー部は創立60周年を迎え、令和元年6月8日にOB・OG約130名、ご来賓、現役部員の総勢約160名が東京都市大学メモリアルホールに集いました。式典は津川OB会会長（1978機）の主催者挨拶で始まり、藤野東京都アイスホッケー連盟副会長、皆川東京都市大学副学長からご祝辞を賜り、顧問の末政先生の乾杯で幕を開けました。津川会長からは「60年の歴史に誇りを持ち、末永くアイスホッケー部魂を引き継いでいって欲しい。」と伝えられ、教育者でもおありになる藤野会長からは学生スポーツの近況報告と長い歴史を刻んできた、部員、関係者の努力に対し賛辞をいただきました。皆川副学長からは「60年続いてきたこととこれほどたくさんの方々が集まったことへの賛辞をいただきました。」

乾杯後は懐かしい面々が各所で楽しい輪を作り、それがまた新しい輪を作り語り尽きぬ思い出と近況報告で話の華を咲かせました。盛会で時間が足早に過ぎたところで北海道から出席の藤田先輩（1976経）による思い出話、歴代OB会長及び歴代監督の紹介に続き、現役監督、現役主将の挨拶、現役部員の自己紹介で秋に開催されるリーグ戦への誓いを宣言。式典も終盤となり60年前に当部を創設され、ここまでお導きいただいた関先輩（1963生）へ津川会長から感謝状が贈呈されました。最後に全員で武蔵工業大学と東京都市大学の校歌斉唱、記念撮影を行い、松本OB会副会長（1983機）の閉会挨拶で楽しかった式典の幕を閉じました。先輩が後輩を思いやり、後輩は先輩を敬う精神がこれからも受け継がれてアイスホッケー部はOB会現役ともに成長していきます。早くも65周年が楽しみです。

◆ご来賓

東京都市大学副学生部長 白旗弘実様、東京都市大学後援会 佐々木勝久様、東京都市大学校友会会長 原口兼正様、東京都市大学附属中学高等学校アイスホッケー部顧問 菊野暁様、東京理科大学Ⅰ部体育局アイスホッケー部総監督 長谷川利和様（ご参加頂き深く感謝申し上げます）



挨拶 津川会長

挨拶 藤野副会長

挨拶 皆川副学長

乾杯 末政先生



スピーチ 藤田先輩

感謝状 関先輩

挨拶 三木監督



クラブ愛でつながる和と笑顔



集合写真

2019年度 就職動向と支援

学生支援部部長 住田 暁弘

就職環境の変化

企業の採用意欲は依然として高く、2020年3月卒業予定学生の新卒求人倍率（リクルートワークス研究所調べ）は1.83倍（昨年1.88倍）となり、昨年より微減したものの引き続き高水準を維持しています。ただ、人気の高い企業群や特定の職種では依然採用の基準は高く、学生にとって厳選採用となっています。

2021年3月卒業予定者の就職活動のスケジュールについては、政府および大学側より、今年度と同様に求人情報の公開時期は大学3年生の3月、採用選考時期は大学4年生の6月のスケジュールを企業側に遵守するように要請しています。しかし、近年では前述のスケジュールに沿わない早期化の傾向にあり、就活生が混乱する一因となっております。本学では早期化のスケジュールにも学生が対応できるよう、キャリア支援イベントの実施時期やガイダンスの内容を適正に変更しながら、学生への意識付けの徹底を実施した結果、今年度も多くの学生から良い結果報告を受けることができています。

一方で、ここ数年本学の学生に限らない傾向ですが、複数の内定を得る学生となかなか内定を獲得することができない学生との差が大きくなっていると感じることも多く、今後も引き続いて全学生に対して、準備の大切さを伝えていきたいと考えております。

前述の通り、来年度の2021年3月卒業生の採用選考時期は今年度と同様となりますが、国内外の経済や政治の変動による環境の変化の可能性は高まっていると思います。学生が変化に戸惑い、不利益を被らないように本学としても十分に対策をしていきます。校友会の皆様からも学生への直接的、また情報提供などの間接的なご支援も一層賜りますようお願いいたします。

2019年度の状況

今年度（2020年3月卒対象）の就職状況は、文部科学省発表の2019年10月時点での国公立大学の平均内定率は「76.8%」となりました。本学では10月時点で学部生でも8割を超え、大学院生では9割近い内定率となっております。人間科学部の保育業界志望者は、11月以降が選考のピークを迎えることを考えましても、全国平均に比べて十分健闘をしておりますが、本学としましては、まだ活動を継続している学生に対しての支援は最優先と認識しております。これからも学内での企業セミナーや継続して求人をしている企業の情報を収集し一層の就職活動の支援を実施してまいります。これからの時期、「モチベーションの維持」「活動を続ける姿勢」が重要なポイントとなります。

近年の主な就職先

最近3か年の主な就職先を以下に示しました。より詳細な資料は大学ホームページ（HOME）＞就職・キャリア＞就職実績＞年度別主要就職先一覧）をご覧ください。

□民間企業	3カ年 合計	2018	2017	2016
キヤノン	29	12	8	9
本田技研工業（HONDA）	29	10	9	10
富士通	25	6	9	10
東日本旅客鉄道（JR 東日本）	24	11	8	5
大成建設	24	5	12	7
スズキ	23	9	5	9
東京電力	21	9	5	7
東急	21	6	8	7
東海旅客鉄道（JR 東海）	21	8	11	2
日立製作所	20	3	8	9
三菱電機	19	6	8	5
凸版印刷	18	5	9	4
日本電気（NEC）	18	7	8	3
大和ハウス工業	16	7	2	7
鹿島建設	14	4	6	4
セイコーエプソン	14	4	8	2
いすゞ自動車	14	3	3	8
SUBARU（富士重工業）	13	6	4	3
大林組	13	4	5	4
東急建設	12	3	5	4
オリンパス	12	4	6	2
日産自動車	10	4	5	1
清水建設	10	5	3	2
竹中工務店	10	1	2	7
トヨタ自動車	9	3	2	4
パナソニック	9	3	3	3
熊谷組	9	5	3	1
積水ハウス	8	1	3	4

□公務員	3カ年 合計	2018	2017	2016
横浜市役所	29	5	11	13
東京都庁	17	4	4	9
神奈川県庁	13	6	1	6
渋谷区役所	9	3	2	4
世田谷区役所	9	2	2	5
国土交通省関東地方整備局	3	1	1	1

東京都市大学への義援金並びに校友会活動充実のための維持会費納入のお願い

東京都市大学は、2019年10月の台風19号により世田谷キャンパスが被災し、完全復旧へまだ時間を要する状況にあります。被災直後より皆さまから義援金を頂戴しておりますが、引き続き募金活動を行っておりますので、ご協力よろしくお願い致します。

また、校友会では、年々活動が活発化しており、今後の活動を維持し、更に充実したものとしていくため、引き続き維持会費の納入をお願い致します。

〈義援金額※〉 1口1,000円（1口以上何口でも結構です。）

〈維持会費金額※〉 1口2,000円（1口以上何口でも結構です。）

※税制上の控除はございません。

〈納入期間〉 いつでも受け付けます。

〈納入方法〉

①会報同封の払込取扱票により、ゆうちょ銀行より振込
……振込手数料は、無料です。

②各銀行窓口・ATM・ネットバンキングより以下の口座に振込……振込手数料は、ご負担ください。

【振込み先】 ゆうちょ銀行

店 名：〇一九（ゼロイチキュウ）

預金種目：当座

口座番号：0451231

口座名称：東京都市大学校友会

*振込の際、義援金・維持会費に〇を付したうえ、会員番号（会報送付封筒記載）又は卒業年・学科をご記入ください。

〈お問い合わせ先〉 東京都市大学 校友会 事務局

校友会のあり方検討会（2019年度第1回）

校友会の今後への運営展開活性化のため、意見を取り交わす会合として2016年から、実施しており、2019年度も9月14日（土）に実施しました。今回のテーマは、「大学の学部・学科再編の動きの中で、今後の校友会組織編成のあり方、活動の進め方について」（幹事の編成、幹事会組織、活動のあり方等）について、グループ討議（5グループ）及び全体討議を通じて活発な意見交換を行いました。ここでの意見を基に具体案の検討を今後進めていきます。



第7回校友会親睦ゴルフ大会

11月14日（木）にファイブハンドレッドクラブ（静岡県裾野市）において、32名の参加により開催しました。今回は、静岡支部と連携して実施し、同支部から7名（内数）の参加があり、今後の地方支部との連携開催の足掛かりになりました。当日は朝のうちは雨模様でしたが、プレイ開始後は、雨も上がり順調に進行し、会員相互の親睦を深めました。

《優勝》 矢嶋信孝氏（1971土木）

《ベスグロ賞》〈70歳以上〉 森下修至氏（1975経営）〈61歳以上70歳未満〉 足立勝美氏（1978建築）
〈60歳以下〉 田中伸幸氏（1989電気）



2019年度校友会進路相談会

11月27日（水）と12月4日（水）の両日に実施しました。今年度は当初3日に亘っての開催を計画していましたが、台風19号により世田谷キャンパスが被災したため、日程を変更しての実施となりました。当日は、学生食堂に参加企業のブースを一同に設け、学生が30分毎に5回移動して説明を聞く形式で行い、相談会後も懇親会の場を設け、活気のある懇談が展開されました。参加企業104社、参加学生331名で、いずれも昨年度を大きく上回りました。

2019年度 定期総会

2019年度 定期総会

2019年6月15日（土）に世田谷キャンパスにおいて2019年度定期総会を開催しました。当日は、13時から総会を行い、「2018年度事業報告」、「同収決算報告及び監査報告」を承認し、「2019年度事業計画」、「同収支予算」、「東京都市大学創立記念事業について」、「都市大校友オンラインへの登録について」等の報告がありました。



終了後、別掲の功労者表彰を行いました。

引き続き、14時45分から、「卒業生による海外インターンシップ報告会」と題して、桃澤愛海外インターンシップ専門委員会委員長より、本学の海外インターンシップの現状説明があった後、卒業生の石田裕之氏（2014経営システム）、草野有稀氏（2014経営システム）、森川岳大氏（2017医用工学科）から、それぞれ在学中の海外インターンシップの体験が現在に生かされている旨のお話をいただきました。

その後、16時から、懇親会の場合へ移動し、会員相互の交流を図りました。（出席者：総会101名、報告会：126名、懇親会125名）



平成30年度 事業報告

A. 組織運営

- ①総会を5月19日（土）、幹事会を3月30日（土）に開催し、常任幹事会10回、各委員会・部会・ワーキングを49回実施した。
- ②「校友会のあり方検討会」を若手を含めた参加者により第1回を9月15日（土）、第2回を2月16日（土）に実施した。
- ③校友会行事、会議、地方支部総会、学科同窓会総会等年間スケジュールを校友会ホームページに掲載した。
- ④維持会費（1口2千円）を継続し、振込の他、定期総会、地方支部総会等で納入を受け付けた。（受付総額4百5十万円）

B. 広報活動

- ①オンラインの登録者へ各種イベント等の案内メール配信している。今後の会員相互の活用範囲を広げるべく利用方法を検討中
- ②オンラインを使っている広報によりイベントを実施、それにより初めて参加した会員が出る等の成果が出ている。
- ③地方支部、学科同窓会の活動の促進のため、依頼により校友会ホームページへの入力を本部で行っている。また、ホームページを見やすくするために画面構造の改善を進めている。
- ④会報「都市」第6号を作成（卒業生へ送付。新卒業生、教職員へも配布。在学生向けサイトに掲載）、ホームページに会報「都市」第1号～第6号まで掲載している。アーカイブ化も進めている。

C. 在学生・母校への支援

1. 大学との連携事業
①定例会、協議会の実施
②大学事業への支援について協議の場を設けて検討、実施した。
2. 在学生への支援事業
①進路相談会を11月7日（水）及び11月28日（水）の両日に実施。学



生参加者（242名）、参加企業（77社）とも前年度を上回った。また、個別相談は、学生食堂で一堂に行い、効率よく進化した。

- ②今年度の夏期海外インターンシップ派遣学生53名のうち、31名が卒業生紹介により実施。
- ③学科同窓会が実施している学科研究会との連携事業を支援した。また、総会の懇親会、賀詞交歓会等に学生団体連合会及び学科研究会の代表者を招待し交流を図っている。

3. 大学事業への支援

- ①博士号取得奨励奨学金（平成31年度より実施）へ500万円を助成した。（各学科3年次末の成績が2位までの学生で博士後期課程までの修学を希望する者を対象に修士課程在籍期間の最長2年間、月額5万円給付する制度）
- ②海外留学への支援（貸与）を行っている海外研修支援会へ150万円を助成した。（平成30年度をもって5年間計画の支援完了）
- ③緊急貸与奨学金は、申請なし。

D. 学科同窓会及び支部活動支援・連携

1. 学科同窓会へ以下の費用を助成した。
(1) 一律支援 → (9学科) 各150,000円 (5学科) 各100,000円
(2) 会報発行支援 → 4学科
(3) 大学の名を高める事業支援 → 2学科
(4) 特別支援 → 新美砂会（旧武蔵工業会と旧美砂会の地方支部統合推進及び強化費用）
(5) 学科研究会との連携事業支援 → 7学科
(6) 就職活動支援事業 → 4学科
(7) 特別講義支援 → 4学科

2. 体育系、文化系クラブOB/OG会連携として、クラブ同窓会がOB/OG団体会を行う場合の案内状宛名ラベルの作成支援を行っている。

3. 地方支部活動の連携・支援

- ①地方支部へ以下の費用を助成した。
(1) 支部総会助成（総会実施支部） → 41支部
(2) 親睦行事助成 → 各種親睦行事開催支部 → 31支部
(3) 役員会開催助成（一律支援） → 42支部（休眠支部は除く）
- ②現役学生の就職活動支援、母校受験者への大学紹介について、本部から各支部総会出席の際に依頼。
- ③地方支部とのネットワーク強化について、旧武蔵工業会・旧美砂会の統合推進⇒地方支部総会の円滑な運営に向け統合推進継続中…34支部、また、支部総会懇親会への他支部からの参加交流を推奨した。

4. 職場支部活動の連携・支援

- ①各支部総会懇親会に積極的に参加（会長、支部委員長、職場支部会長等）し、職場支部とのコミュニケーションを図った。また、職場支部を通して校友会進路相談会の参加を依頼した。
- ②職場支部発足を検討している職場へは立ち上げのサポートを行っている。
- ③各職場支部総会で海外インターンシップの説明及び受け入れ依頼を行った。

E. 会員交流

1. 校友会イベント

- ①総会の開催日に講演会（「講師：李洪千准教授」）及び懇親会実施。賀詞交歓会を1月24日（木）に実施した。
- ②11月1日（木）に第6回親睦ゴルフ大会（参加：42名）、11月17日（土）に「大谷石文化を巡るバスツアー」（参加：39名）をそれぞれ実施した。
- ③総会開催時に功労者表彰（2名）、叙勲受章者慶祝（1名）を行った。

2. 母校行事への参画と連携

- ①大学と共催により各キャンパスにおいてホームカミングデーを行った。
〈6月9日（土）〉横浜キャンパス 91名出席
〈11月3日（土）〉等々力キャンパス 136名出席
〈11月4日（日）〉世田谷キャンパス 247名出席
- ②ホームカミングデーとともに各キャンパス「学園祭」参加を支援した。
- ③学位授与式に際し、以下を実施した。

〈校友会賞授与〉学業優秀で、将来社会での活躍が期待される者を対象に各学科又は専攻毎に各1名、計18名に対して校友会賞を授与した。

〈学位記ホルダー贈呈〉平成30年度卒業生全員に学位記ホルダーを贈呈した。

〈ガーデンパーティの実施〉新規卒業生歓迎行事として大学と共催で学位授与式後にガーデンパーティを実施した。

3. 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画

- ①「自由が丘クラブ」との協業による事業運営の実施」し、利用者が増加している。
- ②取締役及び監査役担当業務の遂行
- ③校友会常任幹事・幹事が取締役5名と監査役1名として役員会に参画。第53期定時株主総会決議

2019年度 事業計画

A. 組織運営

- ①総会・幹事会・常任幹事会・各委員会・付置部会の実施（継続）
- ②「校友会のあり方検討会」を会長諮問機関として実施（継続）
- ③「年間実施スケジュール」の提示・情報共有（継続）
- ④「維持会費募集」（継続）

B. 広報活動

- ①「都市大校友オンライン」の活用・拡充
- ②「講演会・セミナー・親睦行事等」の広報活動の推進
- ③「校友会ホームページ」の活用・普及促進
- ④校友会会報「都市」第7号の発行、会報のデジタル化（アーカイブを含む）の実施

C. 在学生・母校への支援

1. 大学との連携事業
- ①連絡・協議会の開催
- ②連携事業の検討・立案・実施
2. 在学生への支援活動
- ①就職活動支援：「進路相談会」の実施
- ②海外インターンシップ派遣先企業の紹介／提示
- ③「学科研究会」及び「学生団体連合会」との連携・支援

3. 大学事業等への支援

- ①博士課程進学希望者への支援
- ②「緊急奨学金」の貸与（継続）
- ③その他の支援

D. 学科同窓会及び支部活動支援・連携

1. 学科同窓会の活動支援
2. 体育会系、文化系クラブ OB/OG 会との連携
3. 地方支部活動の支援・連携
- ①地方支部活性化支援（活動助成金の給付）
- ②地方支部間の相互親睦推進
- ③就職活動支援依頼、（地元企業と保護者との関係強化）
- ④受験生への母校紹介依頼
4. 職場支部活動の支援・連携
- ①職場支部との連携促進
- ②職場支部発足支援
- ③海外インターンシップ派遣先企業の紹介／提示
5. 海外支部の立ち上げ推進

E. 会員交流

1. 校友会イベント
- ①講演会・懇親会・賀詞交歓会等の開催
- ②親睦行事・相互交流会・セミナー等の企画・開催（地方支部との合同開催含む）
- ③「校友会功労者表彰」の継続実施
2. 母校行事への参画と連携
- ①世田谷・横浜・等々力キャンパス「ホームカミングデー」の共催
- ②世田谷・横浜・等々力キャンパス開催「学園祭」支援
- ③学位授与式：「校友会賞」の授与、ガーデンパーティの共催
3. 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画
- ①「自由が丘クラブ」との協業による事業運営の実施
- ②取締役及び監査役担当業務の遂行

2019年度 功労者表彰

表彰者氏名	
吉田 勝	(1968建築・前会長)
今井 章久	(1969通信・前幹事)
矢崎 克実	(1979経営・前幹事)
薩川 宣昭	(1998経営・前幹事)
赤津 武雄	(1965電気・前川崎支部長)
米津 武彦	(1969経営・前徳島支部長)
翁長 武行	(1958建築・前沖縄支部長)



平成30年度 収支決算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

科 目	予算額	決算額	増減
【事業活動収入】			
会費収入	77,697,000	69,964,300	△ 7,732,700
・ 幹事会費収入	69,900,000	64,940,000	△ 4,960,000
・ 定例会費収入	797,000	450,800	△ 346,200
定期総会懇親会会費収入	500,000	260,000	△ 240,000
賀詞交歓会費収入	150,000	120,000	△ 30,000
その他収入	147,000	70,800	△ 76,200
・ 維持会費収入	7,000,000	4,573,500	△ 2,426,500
その他収入	1,865,000	1,952,518	87,518
・ 税金	165,000	150,000	△ 15,000
・ 配当金立替他	1,700,000	1,802,518	102,518
貸付金返済収入	904,000	540,000	△ 364,000
事業活動収入計	80,498,000	72,456,818	△ 8,041,182
【事業活動支出】			
事業費支出	49,370,000	45,380,803	△ 3,989,197
・ 正会員向事業費支出	31,500,000	30,786,573	△ 713,427
総会懇親会費支出	1,000,000	981,188	△ 18,812
会報関連費支出	5,700,000	6,041,977	341,977
学科同窓会・支部支援費支出	19,300,000	18,646,177	△ 653,823
キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
賀詞交歓会費支出	600,000	414,782	△ 185,218
親睦行事費支出	400,000	202,449	△ 197,551
会報使用料	2,500,000	2,500,000	0
・ 学生支援事業費支出	14,570,000	11,812,739	△ 2,757,261
在学生支援費支出	12,300,000	8,941,657	△ 3,358,343
卒業支援費支出	2,270,000	2,271,082	1,082
・ 大学事業支援事業費支出	3,300,000	3,381,491	81,491
ホームカミングデー費支出	3,300,000	3,381,491	81,491
管理費支出	24,110,000	22,171,647	△ 1,938,353
人件費支出	11,510,000	11,626,194	116,194
事務関連費支出	3,400,000	3,823,243	423,243
会議費支出	3,900,000	3,315,787	△ 584,213
ICTコミュニケーション運営費支出	700,000	1,456,766	756,766
雑費支出	2,500,000	1,949,657	△ 550,343
予備費	3,000,000	0	△ 3,000,000
周年創立金支出	5,000,000	5,000,000	0
事業活動支出計	78,480,000	72,552,450	△ 5,927,550
当期収支差額	1,918,000	△ 95,632	△ 2,013,632
前期繰越収支差額	184,652,536	184,652,536	0
次期繰越収支差額	186,570,536	184,556,904	△ 2,013,632

平成30年度 貸借対照表

平成31年3月31日

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部			
流動資産		流動負債	
現金 預 金	150,924,310	預 り 金	317,406
未 収 入 金	33,950,000	流動負債合計	317,406
短 期 貸 付 金	576,000	負債合計	317,406
流動資産合計	185,450,310		
固定資産		正味財産の部	
投資有価証券	150,837,436	正 味 財 産	387,400,340
関連会社株式	15,070,000	正味財産合計	387,400,340
長期貸付金	11,890,000		
貸 倒 引 当 金	△ 550,000		
周年積立金	25,000,000		
固定資産合計	202,267,436		
資産合計	387,717,746	負債及び正味財産合計	387,717,746

監査報告書

監査報告書

会則第13条第2項の定めに基づき、平成30年度（第14～15期、3.31）における会計について、監査を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

記

監査報告について

1. 平成30年度の事業活動は、「平成30年度事業報告書」に記載の通り、適正かつ円滑に進められたことが認められる。

2. 平成30年度の財務状況は、「平成30年度収支決算書」に記載の通り、適正に把握されていることが認められる。

以上

平成31年4月6日

東京都市大学 校友会

監査役 水谷 有樹

監査役 水谷 有樹

2019年度 収支予算書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

科 目	2019年度予算A	2019年度決算B	A-B
【事業活動収入】			
会費収入	78,000,000	69,964,300	6,035,700
・ 幹事会費収入	68,450,000	64,940,000	3,510,000
・ 定例会費収入	550,000	450,800	99,200
定期総会懇親会会費収入	300,000	260,000	40,000
賀詞交歓会費収入	150,000	120,000	30,000
その他収入	100,000	70,800	29,200
・ 維持会費収入	7,000,000	4,573,500	2,426,500
その他収入	1,950,000	1,952,518	△ 2,518
・ 税金	150,000	150,000	0
・ 配当金立替他	1,800,000	1,802,518	△ 2,518
貸付金返済収入	544,000	540,000	24,000
事業活動収入計	79,714,000	72,456,818	6,257,182
【事業活動支出】			
事業費支出	48,120,000	45,380,803	2,739,197
・ 正会員向事業費支出	31,800,000	30,786,573	1,013,427
総会懇親会費支出	1,000,000	981,188	18,812
会報関連費支出	6,100,000	6,041,977	58,023
学科同窓会・支部支援費支出	19,300,000	18,646,177	653,823
キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
賀詞交歓会費支出	500,000	414,782	85,218
親睦行事費支出	400,000	202,449	197,551
会報使用料	2,500,000	2,500,000	0
・ 学生支援事業費支出	13,020,000	11,812,739	1,207,261
在学生支援費支出	10,750,000	8,941,657	1,808,343
卒業支援費支出	2,270,000	2,271,082	△ 1,082
・ 大学事業支援事業費支出	3,300,000	3,381,491	△ 81,491
ホームカミングデー費支出	3,300,000	3,381,491	△ 81,491
管理費支出	25,250,000	22,171,647	3,078,353
人件費支出	11,800,000	11,626,194	173,806
事務関連費支出	4,200,000	3,823,243	376,757
会議費支出	3,900,000	3,315,787	△ 584,213
ICTコミュニケーション運営費支出	1,250,000	1,456,766	△ 206,766
雑費支出	1,700,000	1,949,657	△ 249,657
予備費	3,000,000	0	△ 3,000,000
周年創立金支出	5,000,000	5,000,000	0
事業活動支出計	78,870,000	72,552,450	6,317,550
当期収支差額	144,000	△ 95,632	239,632
前期繰越収支差額	184,656,904	184,652,536	4,368
次期繰越収支差額	184,700,904	184,556,904	144,000

海外インターンシップの紹介

海外インターンシップ専門委員会委員長
工学部医用工学科 桃沢 愛

本学の海外インターンシップは、グローバル人材育成の取り組みとして2011年に学生4名を派遣することから始まり、2019年までに延べ289名を送り出しました。2013年に「アクションプラン2030」に組み込まれ、2030年までに年間100名の派遣を目標としています。

この海外インターンシップの特徴は、派遣先開拓から学生派遣まで全般を大学が行っているところです。担当教職員は、渡航準備から成果報告会資料作成まで指導し、派遣先に出向いての助言や現地報告会に出席などのサポートを行います。また、派遣先開拓・交渉を大学が行うため、学生の自己負担は航空券代・宿泊費等の必要経費のみで済み、さらに五島育英会・夢に翼を奨学金（返済不要）により経費の一部が支給されます。

学生は、派遣先でメンバーの一人として受け入れられ、与えられた課題に対し現地の方々の指導を受け、共に働きます。考え方や指導方法の異なる環境での初めての実務経験はハードルが高いですが、学生は其中で成果を出すために努力することにより、約1か月という短期間で大きく変わります。また、日本と異なる価値観の中でスタッフの方々のホスピタリティに触れることで、学生は視野広がることで多様な思考力をつけ、コミュニケーション能力が飛躍的に向上します。その結果、学生は与えられた環境に適応することの重要性に気づき、自分の将来を真剣に考えるようになり、大きく成長します。

当初は派遣先開拓に苦労しましたが、卒業生の方々が「後輩のために」と、勤務先やご縁のある会社をご紹介くださったことで、今日の規模まで拡大できました。さらに2017年には校友会・海外インターンシップ特別部会が発足し、派遣先開拓や現地サポートにご協力いただいております。校友会の皆様には感謝の念に堪えないと共に、これこそが本学の強みであると感じています。

近年大学の国際化が進んでおりますが、本学の海外インターンシップは、他に真似の出来ない骨太のプログラムであると自負しております。今後ともご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

《卒業生による海外インターンシップ経験談》

■石田 裕之 2016年 システム情報工学専攻 修了

大学院1年時に WHDA 法律事務所（米国）派遣。現在日立製作所勤務。

元々“小心者”故、外国人に対して恐れ多い気持ちを抱いていましたが、海外インターンシップの経験により外国人に対する考え方が変化し、バックグラウンドや言語が違うだけであると考えられるようになりました。また、フットワークが軽くなり、行動するスピードが上がりました。人への働きかけが苦手でしたが、海外インターンシップでリーダーとしてコミュニケーションの仕方や役割分担を工夫し、メンバー5人を纏めました。また、自分の趣味である歌はグローバルに通用するコミュニケーションツールであり、人と人の心の距離をぐっと近づけられることも分かりました。

就職後上司に、「君の長所は、常人よりもフットワークが軽いことと、親しみやすく皆が相談しやすいことである。それによりプロジェクトの潤滑油として活躍できている」と言っていただきました。

■草野 有希 2016年 システム情報工学専攻 修了

経営システム工学科4年時に OKI データ（タイ）、大学院1年時に WHDA 法律事務所（米国）に派遣。現在 NEC 勤務。

派遣前は自分の頭で考える能力が退化し、教科書やネット記事などの受け売りを自分の意見としていました。

派遣先はプリンタ製造工場で、生産技術のインターンシップを経験しました。2つの製造ラインを任せられ、工程変更の全権限を与えられました。大学で学んだ知識を動員して、統計データから改善案を立案、実行し、生産性向上に貢献できました。ここから得たことは、学問を課題解決に役立てる経験および仕事でシンプルに本質を追及する経験で、社会人になった今非常に役に立っています。

■森川 岳大 2017年 工学部医用工学科 卒業

学部4年時にターラック市役所と公立学校（フィリピン）に派遣。卒業後北海道大学公共政策大学院に進学。現在富士通総研勤務。

海外インターンシップの経験を通して、課題解決スキル、正確な情報を得るためのコミュニケーションスキル、幅広い知識・教養と専門性が必要であると実感し、身につける必要性を感じました。成長した点としては、主体性の向上、異なる文化や宗教への理解、ロジカル＆クリティカル・シンキングです。その結果、社会人になって①常識に囚われない様々な角度からの思考②グローバル⇔ローカルの意識③異文化への理解④主体的な行動の大切さを感じています。今後もこの経験を成長の糧として、主体的な行動の実践や広く深い学びの継続を常に意識し、更なるステップアップに繋がっていきたいと考えています。

本稿は校友会総会に合わせて開催された海外インターンシップ報告会の内容を中心にまとめたものです。

表紙解説

解説 勝又 英明 (1980建築)

第7号の表紙は、再開発のための敷地整備が進む世田谷キャンパスを3号館から南東方向に見たものです。手前が敷地整備中のA地区で、銀杏並木越しにB地区10号館が見えます。さらに武蔵小杉の超高層住宅街が遠望できます。ご覧のようにA地区の6、7、15、16号館はすでに解体され、更地となっています。B地区の8号館も解体されています。さらに奥に見える10号館も再開発のために解体の予定です。撮影は2020年1月20日、3号館4階の情報科学科横山研究室より行いました。

ご存じのように、2019年10月12日から13日に台風19号により世田谷キャンパスの一部は浸水被害に遭いました。遠望の武蔵小杉一帯でも、最大で1.4mの浸水被害に遭いました。お陰様で授業はほぼ通常通り行われていますが、完全復旧にはもう少し時間がかかりそうです。しかし、浸水被害があったにもかかわらず、世田谷キャンパスの再開発は順調に進んでいます。卒業生の皆様、世田谷キャンパスの再開発による大変貌をご期待ください。

《寄付受領》

校友会へ以下のとおりご寄付いただきましたので、ご報告致します。

寄付者	連絡者	金額	受領日
工親会 (機械工作研究室同窓会)	吉野栄紀氏 (1971機械)	188,944円	2019年 5月29日



編集後記

和多田 雅哉
(1984電気)

校友会誌「都市」も7号の発行となりました。今回も、会報編集部会の藤井部会長を中心に「都市」の原稿の取りまとめを行いました。また、前号と同様に、誌面制作と印刷を別々の業者をお願いする方式を採用しました。実績のある業者をお願いしましたので問題なく仕上がったと思いますが、出来栄えの方は如何でしょうか？

前号に続き、今号でも「活躍する卒業生インタビュー」を掲載いたしました。多様な分野で活躍されている卒業生の様子をお伝えできれば幸いです。

定例の記事「定期総会の報告」「支部報告(地方支部だより)」「学科同窓会だより」も掲載いたしました。活発な活動を続けている各支部での様子をお伝えいたします。また、課外活動団体(クラブ活動等)OB会の活動の様子も掲載いたしました。歴史のあるクラブOB会の活動もお伝えいたします。

大学の現況報告としては、各学部・学科の「学科だより」や「2019年度就職状況」を掲載いたしました。今現在の「都市大」の様子をご覧いただけます。

本号掲載記事と併せて、校友会からの情報媒体として、校友会ホームページもご利用いただければ幸いです。

会員の皆様におかれましては、昨年の台風19号による世田谷キャンパスの罹災に際し、多大なご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。未だ、一部では復旧作業が続いている状況ですが、完全復旧に向けて、日々、復旧作業を進めているところです。引き続き、皆様からのご支援、ご協力をお願いいたします。

末筆となりましたが、ご執筆いただきました皆様、編集にご協力いただきました皆様および事務局に感謝申し上げます。

会報編集部会

部会長：藤井 研一 (1982建築)
編集長：和多田雅哉 (1984電気)
委員：江藤 和安 (1971経営)
委員：服部 圭子 (1975家政)
委員：加藤 祐子 (1978国文)
委員：勝又 英明 (1980建築)
委員：衣斐喜美子 (1980家政)
委員：羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)
委員：相澤 直人 (大学事務局)

2020年3月19日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.07

発行人 原口 兼正

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区玉堤 1-28-1

東京都市大学 1号館 4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL <http://www.tcu-alumni.jp>

制作 株式会社耕文社

印刷 大日本印刷株式会社

CONTENTS 2020 March Toshi vol.07

1-2 巻頭言

- 1 東京都市大学 校友会 副会長 松村 慶一
川辺加代子
- 2 東京都市大学 学長 三木 千壽

3-4 活躍する卒業生

- 5 ホームカミングデー
- 6 校友会バスツアー

7-12 支部だより

- 13 職場支部だより
- 14 他団体紹介

15-20 学科だより

21-23 学科同窓会だより

- 24 アイスホッケー部60周年

- 25 2019年度 就職動向と支援

- 26 校友会からのお願いならびにご報告

27-28 2019年度 定期総会

- 29 海外インターンシップ委員会からのご報告

- 30 表紙解説・編集後記

2020年度 校友会定期総会のご案内

- 期日：2020年5月16日（土）
- 場所：東京都市大学 世田谷キャンパス
- スケジュール ＊教室は変更になる場合があります。
 - 12：30 受付 2号館1階21C教室前
 - 13：00 定期総会 21C教室
 - 14：45 講演会＊ 21C教室
 - 16：00 懇親会 3号館4階メモリアルホール

※講演会

〈テーマ〉映画作りの楽しさ・難しさ
〈講師〉映画監督 本木 克英氏
〈主な監督作品〉「てなもんや商社」（第18回藤本賞新人賞）、「釣りバカ日誌」11～13、「ゲゲゲの鬼太郎」、

「犬と私の10の約束」、「鴨川ホルモー」（第1回沖縄国際映画祭ゴールデンシーサー賞）、「超高速！参勤交代」（第38回日本アカデミー賞優秀監督賞、第57回ブルーリボン賞作品賞）、「超高速！参勤交代リターンズ」、「空飛ぶタイヤ」（第42回日本アカデミー賞優秀作品賞）、「居眠り磐音」他の映画作品、TVドラマ作品多数。

■懇親会費：3,000円（2020年3月学部卒業者及び卒業生の家族同伴者は、1名につき1,000円）



2020年 ホームカミングデーのご案内

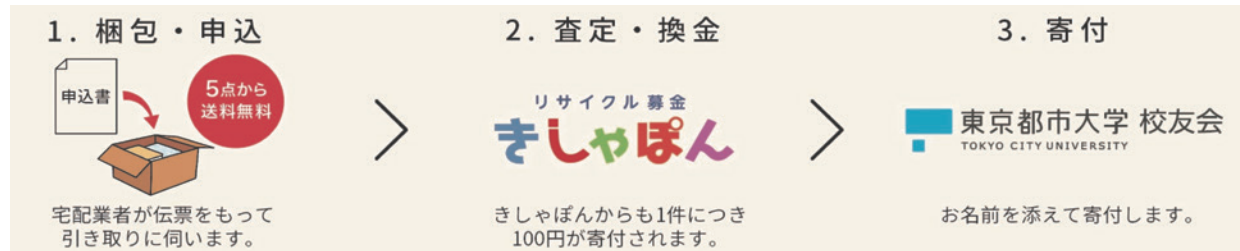
横浜C：2020年6月6日（土）、等々力C：2020年11月7日（土）、世田谷C：2020年11月8日（日）

（詳細については、決まり次第、東京都市大学ホームページに掲載致します。）

東京都市大学校友会リサイクル募金について

皆様から読み終えた本、DVD等をご提供いただき、その査定金額が東京都市大学校友会に寄付される取り組みです。寄付金は、在学生支援事業に役立てられます。ご協力の程よろしくお願い致します。

梱包前にできるものとできないものをご確認ください。



- WEBでのお申し込み（24時間） 東京都市大学校友会リサイクル募金 kishapon.com/tcu-alumni/
 - 電話でのお申し込み（9：00～18：00） ☎ 0120-29-7000 オペレーターに [\[208\]](#) とお伝えください。
- （運営協賛）リサイクル募金きしゃぽん／嵯峨野株式会社

「都市大校友オンライン」のご案内

東京都市大学と東京都市大学校友会では、会員への情報提供に関わるサービス向上を図るため、「都市大校友オンライン」(<https://tcu-alumni.jp/new/tcu-online/>)の運用を行っております。

- 「都市大校友オンライン」による web 版会員名簿では、開示されている情報の検索・閲覧ができます。
- web 版会員名簿の会員情報開示の可否は会員自身で設定できます。
- 「都市大校友オンライン」にログイン・登録された方には、校友会イベント等のメール案内を行っております。

ー「都市大校友オンライン」にログイン・登録をお願いしますー

「都市大校友オンライン」は、校友会イベントのご案内配信等様々な場面で利用され、導入の成果を上げています。

しかし、残念ながらログイン・登録された方は、全会員の4～6％に留まっています。より多くの方に登録していただくことが「都市大校友オンライン」の利用価値の向上に繋がります。

